

2024年度

科目名	スポーツ科学1	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	今井 公一	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

「知識だけでは良い指導は出来ないが、知識がないと良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を現場で活かせるように可能な限り実践も交えながら進めていく。

到達目標

- 1) 理論だけではなく、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。
- 2) 筋力トレーニングやストレッチの種類について理解し、説明・実施することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	動きを診る時の3つの面
第2回	骨と関節の分類
第3回	筋肉の種類と役割
第4回	トレーニングの原理と原則
第5回	筋力トレーニング（体幹）
第6回	筋力トレーニング（上肢）
第7回	筋力トレーニング（下肢）
第8回	コーディネーショントレーニング
第9回	ファンクショナルトレーニング
第10回	SAQトレーニング
第11回	スタティックストレッチ
第12回	ダイナミックストレッチ
第13回	栄養について
第14回	救急法
第15回	定期試験
第16回	総括
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。

事後学習：講義で取り扱った内容を復習（実践）する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験及び小テスト

使用テキスト

適宜指示する

担当教員の実務経験

2024年度

科目名	医療情報処理1	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	萩原 利彦	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。 特に本講義では、文書作成では広く普及しているMicrosoft Wordを使ったレポートおよびビジネス書類の作成を学ぶ。					
到達目標					
パソコンを用いて、次のようにMicrosoft Wordを活用できるようになる。 ①レポートの作成 ②ビジネス文書の作成 ③複数のアプリケーションを統合した活用 2年次のオンライン授業レポートに対応できる能力を身につける。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	導入(授業概要、目標)、コンピュータの基本設定の確認				
第2回	Wordの基礎①（起動と終了、キーボードの使い方、タッチタイプ練習法）				
第3回	Wordの基礎②（機能説明、文章入力、文字入力とファイル保存）、ファイル操作とフォルダ操作（OneDrive）				
第4回	情報リテラシーとインターネット検索方法				
第5回	Wordの基礎③（文章入力、ページレイアウト、書式設定、印刷設定）				
第6回	Wordの基礎④（表の挿入、罫線の設定、ヘッダーとフッター説明）				
第7回	Wordの基礎のまとめ（ビジネス文書の作成）				
第8回	OneNoteの活用				
第9回	Wordの応用①（オブジェクト操作・図形の挿入・テキストボックスの挿入）				
第10回	Wordの応用②（写真・図の挿入、スマホからの写真共有方法）				
第11回	Wordの応用②（写真・図における背景の処理）				
第12回	Wordの応用③（フォーマットの活用）				
第13回	Wordの応用④（差し込み印刷の説明）				
第14回	Wordの活用まとめ①（ビジネス文章の作成）				
第15回	Wordの活用まとめ②（ビジネス文章の作成）				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
タッチタイプについて、修得方法をお伝えします。日々練習することでタイピング速度が上がります。是非練習してみてください。また、Teams、UMU等のシステム利用や、ブラウザでの検索など、日々PCを使用してみてください。 また、授業内容に関する課題を毎回与えます。知識の定着のために必ず復習すること。					
成績評価					
定期試験(80%)、課題（20%）を総合して評価する。					
使用テキスト					
担当教員の実務経験					
大学においてネットワーク管理者、情報科学担当としての実務経験を有する。					

科目名	解剖学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

1年次の解剖学Iでは、まず解剖学が医学全体、あるいは柔道整復師になるための学習全体の中でどのような位置づけにあるかを説明する。続けて歴史的にどのように扱われてきたかを紹介することで、医学分野内の横のつながりと時代の流れの中での縦のつながりをまず意識していただきたい。

その上で、生命の基本構造である細胞・組織・器官の形態的特徴から学習を始める。細胞の構造は高校の生物学でも学習をしているなじみのある内容なので、取り組みやすいと思う。

その上で、無意識下で生命を維持するための内臓である心臓、血管系、呼吸器系、消化器系について、位置、形態と構造の特徴、血管分布などについて解説する。

到達目標

必要最低限の基礎医学としての解剖学の知識が身につく、ヒトの体内の臓器や器官の構造と役割を相互の関係も含めて説明できるようになることを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	人体解剖学概説1 歴史・分類・細胞
第2回	人体解剖学概説2 組織・発生
第3回	脈管系1 循環経路・血管の種類・心臓
第4回	脈管系2 動脈系1) 大動脈・頭頸部・上肢
第5回	脈管系3 動脈系2) 胸腔・腹腔
第6回	脈管系3 動脈系3) 骨盤部・下肢
第7回	脈管系4 静脈系1) 上大静脈・下大静脈・門脈
第8回	脈管系4 静脈系2) 骨盤部、胎児循環、リンパ系
第9回	呼吸器系
第10回	消化器系1
第11回	消化器系2
第12回	消化器系3
第13回	消化器系4
第14回	解剖学I 復習とまとめ1
第15回	解剖学I 復習とまとめ2
第16回	解剖学I 定期試験解説とまとめ
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

動画の内容を理解し、課題を全問正解できるまで繰り返し視聴する。You tubeや他の参考書も活用して、立体的な位置関係を把握できるように努力してほしい。

成績評価

定期試験と小テストで60点以上得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社

担当教員の実務経験

医学部研究室に25年間常勤教員として勤務し、寄生虫学・アレルギー学・糖尿病学の研究および教育として薬理学実習、実験動物医学担当。その後非常勤講師として、医学部、獣医学部、医学系専門学校において、生理学講義及び実習、薬理学、生物学、寄生虫学講義及び実習に従事し、現在に至る。

科目名	生理学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

1年次の生理学Iでは生理学を学ぶ目的であるホメオスタシス＝人体内で健康状態を保つために行っている各器官の働きについて、無意識下の自律的機能について学ぶ。
具体的には高校の生物学で勉強した細胞の構造から始まり、血液の組成や役割、循環、呼吸、消化と吸収など、ヒトが生物として生きていくための働きを学習する。
合わせて基本的な医学用語や生理学的な表現を習得する。

到達目標

ヒトが生物として生きるしくみを細胞レベルから始まり、内臓の働きを説明できるようになることを目的とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	生理学で学ぶこと、ホメオスタシス
第2回	血液 1 血液の組成
第3回	血液 2 血液細胞・凝固・血液型
第4回	血液 3 免疫のしくみ
第5回	循環 1 循環経路・心臓の構造とはたらき
第6回	循環 2 心電図と心周期
第7回	循環 3 血管の種類と働き、血圧調節
第8回	呼吸 1 呼吸器の特徴・呼吸のしくみ・換気
第9回	呼吸 2 ガス交換・ガス運搬・呼吸の調節
第10回	消化と吸収 1 消化器の種類と消化の過程
第11回	消化と吸収 2 各消化器の働き
第12回	消化と吸収 3 消化の完了と吸収
第13回	栄養素の代謝
第14回	生理学Iの復習とまとめ 1
第15回	生理学Iの復習とまとめ 2
第16回	生理学I 定期試験解説とまとめ
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

何も見なくても課題を解けるようになるまで、動画を繰り返し視聴し、教科書の内容を理解する。また、YouTubeや他の専門書も参考にして理解を深めてほしい。

成績評価

定期試験と小テストで60点以上得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社

担当教員の実務経験

医学部研究室に25年間常勤教員として勤務し、寄生虫学・アレルギー学・糖尿病学の研究および教育として薬理学実習、実験動物医学担当。その後非常勤講師として、医学部、獣医学部、医学系専門学校において、生理学講義及び実習、薬理学、生物学、寄生虫学講義及び実習に従事し、現在に至る。

2024年度

科目名	柔道 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	水村 麻輝	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位

授業概要

精力善用、自他共栄の精神を身につけさせる。相手の人格を尊重し受身、基本動作、礼法、形を修得する。

到達目標

認定実技審査で必要な技能を30%～40%修得を目的とする。

- ・柔道着の着方
- ・マナー
- ・前受身 後受身 前受身
- ・礼法
- ・講道館投の形手技まで

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	柔道着の着方、マナー
第2回	柔道着の着方 マナー 歴史について
第3回	柔道着の着方 礼法 基本動作
第4回	礼法 基本動作 後受身
第5回	基本動作 後受身 前受身
第6回	前受身練習1
第7回	前受身練習2
第8回	受身全般を通して練習
第9回	中間試験（柔道着の着方 礼法 受身）
第10回	講道館投の形 手技 浮落
第11回	講道館投の形 手技 浮落 背負投
第12回	講道館投の形 手技 背負投 肩車
第13回	講道館投の形 手技 腰技 肩車 浮腰
第14回	講道館投の形 浮落～浮腰まで
第15回	期末試験

授業時間外の学習

事前学習：怪我の防止のために柔軟体操を行う。
事後学習：実際に修得できているかどうかを小テストのような形式で行う。

成績評価

期末試験100%で評価をする。

使用テキスト

柔道大辞典

担当教員の實務経験

科目名	基礎柔道整復学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
柔道整復学履修に必要な基本的知識を身につける。					
到達目標					
初年度教育として柔道整復学の教科書の構成、教科概要について全体像を理解するとともに、常用される医学用語を使用・理解できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	専修学校・学習法の理解				
第3回	PCにおける学習利用の理解				
第4回	医療用語の暗記・読解力の向上				
第5回	医療用語の暗記・読解力の向上 2				
第6回	医療用語の暗記・読解力の向上 3				
第7回	実技を用いたの行動の記述と解釈				
第8回	ディスカッションによる問題解決（教科書要約）				
第9回	ディスカッションによる問題解決（教科書要約） 2				
第10回	ディスカッションによる問題解決（教科書要約発表）				
第11回	文章の校正と記述				
第12回	文章の校正と記述 2（section 2）				
第13回	図の構成と描写				
第14回	図の構成と描写 2（section 3）				
第15回	文章の解釈と記述1				
第16回	文章の解釈と記述2				
第17回	文章の解釈と記述3（section4）				
第18回	グループディスカッションによる問題解決				
第19回	グループディスカッションによる問題解決2				
第20回	グループディスカッションによる問題解決（section5）				
授業時間外の学習					
授業外でも当校指定のICTプラットフォームを日常的に使うこと。学習効果については、日々の学習に取り入れることが、訓練であり効果となっていくため、ぜひ実践してください。					
成績評価					
課題による試験から定期試験の30点分を事前に示しPCによる効果測定を行う。(section1は3課題；各10点ずつ)					
文章の校正と記述からレポート課題から口頭試問を行う（section2；10点）					
と描写から指定された図・表を完成させる（section3；10点）					
から即時的な理解や発表による読解力と表現力を確認する（section4；10点）					
ループディスカッションによる広大な授業範囲を複数名で問題解決を行う協調性をみる（section5のみ；40点）					
section 1～5はそれぞれ得点を設けるが、sectionは段階的に進捗すること					
使用テキスト					
授業特性上その都度資料を配布いたします。					
担当教員の実務経験					
施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する					

2024年度

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

総論総説における捻挫脱臼(p12-19,p46-59)、筋の損傷 (p64-p70) についての損傷状態について理解するほか、鎖骨骨折からモンテギア骨折の各論について理論編(p174-214)実技編 (p62-146) を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。

到達目標

柔道整復学の捻挫・脱臼における総論および、上肢骨折について授業概要の範囲を説明することができる。また、いかなる出題形式の国家試験を解けるレベルでの理解度の修得を目指す。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス 人体に加わる力	第21回	D.上腕骨骨幹部骨折
第2回	損傷時に加わる力・痛みの基礎	第22回	D.上腕骨骨幹部骨折 2
第3回	関節の損傷（捻挫一脱臼）A-B	第23回	D.上腕骨骨幹部骨折 3
第4回	関節の損傷（捻挫一脱臼）C-D	第24回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折
第5回	関節の損傷（捻挫一脱臼）E-F	第25回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 2
第6回	筋の損傷A-C	第26回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 3
第7回	筋の損傷D-F	第27回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 4
第8回	A.鎖骨骨折	第28回	E.上腕骨遠位部骨折,2上腕骨外顆骨折
第9回	A.鎖骨骨折 2	第29回	E.上腕骨遠位部骨折,3上腕骨内側上顆骨折
第10回	A.鎖骨骨折 3	第30回	F.前腕骨近位端部骨 1橈骨近位端部骨折
第11回	B.肩甲骨骨折 1.体部・上・下角骨折	第31回	F.前腕骨近位端部骨 2肘頭骨折
第12回	2関節窩骨折,3頸部骨折,4肩峰骨折,5烏口突起骨折	第32回	G.前腕骨骨幹部骨折 1橈骨骨幹部骨折
第13回	C.上腕骨近位部骨折 1骨頭骨折,2解剖頸骨折	第33回	G.前腕骨骨幹部骨折 2ガレアジ骨折 3尺骨骨幹部骨折
第14回	3外科頸骨折	第34回	G.前腕骨骨幹部骨折 4モンテギア骨折
第15回	3外科頸骨折2	第35回	G.前腕骨骨幹部骨折 4モンテギア骨折 2
第16回	3外科頸骨折3	第36回	総復習
第17回	4大結節,5小結節単独骨折,6近位骨端線離開	第37回	総復習
第18回	総復習 試験対策	第38回	演習問題
第19回	前期定期試験	第39回	後期定期試験
第20回	前期定期試験	第40回	後期定期試験

授業時間外の学習

学び始めの時期であるからこそ、前提となる解剖学の知識を日々深めていくことが学生には望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席および試験の平均が60点以上であることを原則とする。試験の平均とは定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を1割として換算する。学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版
校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

全国柔道整復学

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	三野 勝大	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

総論における骨折（p20～46）の損傷状態について理解するほか、橈・尺両骨骨幹部骨折から末節骨骨折の各論（p214～244）について、損傷の発生機序・症状・合併症・固定について学ぶ。

到達目標

柔道整復学の総論、および上肢骨折について授業範囲を説明することを目標とする。
 ・総論については骨折の種類、症状、合併症を理解して説明できる。
 ・上肢骨折については、発生機序、特徴、症状、合併症、治療法を理解して説明できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	【骨の損傷】 A.骨の形態と機能	第21回	【H.前腕遠位端部骨折】1.橈骨遠位端部骨折（コーレス1）
第2回	B.骨損傷の概説	第22回	1.橈骨遠位端部骨折（コーレス2）
第3回	C.骨折の種類 1	第23回	1.橈骨遠位端部骨折（スミス・バートン）
第4回	C.骨折の種類 2	第24回	【I.手根部の骨折】1.舟状骨骨折1
第5回	D.骨折の症状（1.局所症状・2.全身症状）	第25回	1.舟状骨骨折2
第6回	E.骨折の合併症1（1.併発症・2.続発症）	第26回	2.三角骨骨折、3.有鉤骨骨折、4.豆状骨骨折
第7回	E.骨折の合併症2（1.併発症・2.続発症）	第27回	【J.中手骨部の骨折】1.骨頭部骨折
第8回	E.骨折の合併症（3.後遺症）	第28回	2.中手骨頸部骨折
第9回	F.小児の骨折・高齢者骨折（1.小児骨折）	第29回	3.中手骨骨幹部骨折
第10回	F.小児の骨折・高齢者骨折（2.高齢者骨折）	第30回	4.第1中手骨基部骨折1（ベネット、ローランド）
第11回	G.骨折の癒合日数 H.骨折の治療経過	第31回	4.第1中手骨基部骨折2（ベネット、ローランド）
第12回	I.骨折の予後	第32回	5.第5中手骨基部骨折
第13回	J.骨折の治療に影響を与える因子	第33回	【K.指骨の骨折】1.基節骨骨折
第14回	【G.前腕骨骨幹部骨折】5.橈・尺両骨骨幹部骨折1	第34回	2.中節骨骨折
第15回	5.橈・尺両骨骨幹部骨折2	第35回	3.末節骨骨折
第16回	復習（骨の損傷1）	第36回	復習（前腕骨遠位端部骨折）
第17回	復習（骨の損傷2）	第37回	復習（手根部骨折・指骨骨折）
第18回	自習	第38回	自習
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	解答・解説	第40回	解答・解説

授業時間外の学習

授業の役割として、「情報提供」と「確認の試験」を主としており、学生が持つ問題点や疑問点の解決・解説を内容のコンセプトとしている。時間外の学習では、毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でもうけることが望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
 試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および参考資料の内容を含む。
 試験結果については定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。
 最終評価には小テストの平均点を加算する。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版
 全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	基礎柔道整復学Ⅳ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

総論総説における筋損傷、腱損傷、神経損傷(p62-82)についての損傷状態について理解するほか、下肢全般の骨折の各論について理論編(p245-292)実技編 (p290-343)を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。

到達目標

柔道整復学の筋損傷、腱損傷、神経損傷における総論および、下肢骨折について授業概要の範囲を説明することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス A.筋の構造と機能	第21回	3大腿骨遠位端部骨折（頸部・内側側副靭帯裂離）
第2回	B.筋損傷の概説、C.筋損傷の分類	第22回	C.膝蓋骨骨折、実技編下腿骨骨幹部骨折
第3回	D.筋損傷の症状、E.治癒機序、F.予後	第23回	D.下腿骨骨折 1下腿骨近位端部骨折（脛骨顆部）
第4回	A.腱の構造と機能、B.腱の概説	第24回	1下腿骨近位端部骨折（顆間隆起・脛骨粗面・腓骨）
第5回	C.腱損傷の分類	第25回	2下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独・脛腓両骨）
第6回	D.腱損傷の症状、E.治癒機序	第26回	実技編 下腿骨骨幹部骨折
第7回	A.末梢神経の構造と機能、B.末梢神経の概説	第27回	2下腿骨骨幹部骨折（腓骨骨幹部・下腿骨顆上）
第8回	C.末梢神経の分類	第28回	3下腿骨遠位端部骨折および足部の脱臼骨折
第9回	D.末梢神経損傷の症状、E.末梢神経損傷の治癒過程	第29回	3下腿骨遠位端部骨折および足部の脱臼骨折2
第10回	A.骨盤骨骨折 1.骨盤骨単独骨折	第30回	実技編 顆部骨折
第11回	2.骨盤輪骨折	第31回	E.足・足趾骨折
第12回	B.大腿骨骨折 1大腿部近位端部骨折(骨頭部・頸部)	第32回	1足根骨骨折（距骨骨折）
第13回	1大腿部近位端部骨折(頸部分類)	第33回	実技編 距骨体部骨折
第14回	実技編 頸部骨折	第34回	1足根骨骨折（踵骨骨折）
第15回	1大腿部近位端部骨折(転子部・転子下)	第35回	1足根骨骨折（舟状骨・立方骨骨折）
第16回	2大腿骨骨幹部骨折	第36回	2中足骨骨折、3趾骨骨折
第17回	実技編 大腿骨骨幹部骨折	第37回	実技編 中足骨骨折
第18回	3大腿骨遠位端部骨折（顆上・遠位骨端線離開）	第38回	実技編 趾骨骨折
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	定期試験解説	第40回	定期試験解説

授業時間外の学習**成績評価**

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、各教科に定められた定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版
校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

全国柔道整復学

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。
 具体的にはビジュアルとして筋骨格系を捉えながら骨の名称、筋肉の起始停止となるようなランドマーク、
 筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。

また、1年時のプログラムとしてグループワークも取り入れ、クラス内のチームワーク形成を図る。

到達目標

- ①骨の描写が出来、名称を言えるようにする。
- ②筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。
- ③筋肉の名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、筆記、口頭ともに完璧に答えられるようにする。

そうすることで、柔道整復学理論編の学習理解を深めることを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・肩甲骨	第21回	内寛骨筋確認テスト・外寛骨筋
第2回	上腕骨確認テスト・前腕骨	第22回	大腿の伸筋確認テスト・大腿の屈筋
第3回	手根骨（前腕骨）確認テスト・上肢の骨の復習	第23回	大腿の内転筋確認テスト・大腿の伸筋・腓骨筋
第4回	上肢復習	第24回	下腿の屈筋確認テスト・足背の筋・中足筋
第5回	下肢ガイダンス・骨盤全体	第25回	母指球筋・小指球筋確認テスト下腿筋復習
第6回	寛骨確認テスト・大腿骨	第26回	筋の起始停止 総復習
第7回	下腿骨確認テスト・足根骨	第27回	骨の名称確認テスト（筆記）
第8回	骨盤寛骨確認テスト2・大腿骨確認テスト2	第28回	上肢の筋 画像確認テスト
第9回	頭蓋骨	第29回	下肢の筋 画像確認テスト
第10回	蝶形骨・側頭骨確認テスト上顎骨・下顎骨	第30回	上肢の筋 画像確認テスト2
第11回	頭蓋底確認テスト・頭蓋骨復習	第31回	下肢の筋 画像確認テスト2
第12回	脊柱確認テスト・胸郭	第32回	上肢の筋 画像確認テスト3
第13回	頭蓋骨確認テスト2	第33回	下肢の筋 画像確認テスト3
第14回	骨総復習	第34回	上肢の筋 穴埋め確認テスト1
第15回	浅胸筋確認テスト・浅背筋	第35回	下肢の筋 穴埋め確認テスト1
第16回	上肢帯の筋確認テスト・上腕の筋	第36回	上肢の筋 穴埋め確認テスト2
第17回	前腕屈筋確認テスト・前腕伸筋	第37回	下肢の筋 穴埋め確認テスト2
第18回	母指球筋確認テスト・小指球筋・中手筋	第38回	筋の総復習1（関節の動き）
第19回	上肢の筋肉復習	第39回	筋の総復習2（関節の動き）
第20回	下肢の筋肉・内寛骨筋	第40回	

授業時間外の学習

筋・骨格系を理解するには大変な時間を要する。よって日々の復習を習慣づけて自己研鑽に努めていただきたい。また、グループで協力しながら学習理解を深めていくチームワークの形成やコミュニケーション能力の向上にも重点をおき、進めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席を満たさない場合は不可とする。
 各section（課題提出 確認テスト）の点数合計が120点/200点以上を単位認定の下限とする。

使用テキスト

毎回資料を配布。
 授業ではヒューマン・アトミー・アトラスの3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。
 医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校協会 監修 解剖学 改定第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

筋・骨格系の理解と正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。
具体的にはビジュアルとして筋骨格系を捉えながら骨の名称、筋肉の起始停止となるようなランドマーク、筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。

到達目標

- ①骨の描写が出来、名称を言えるようにする
- ②筋肉の描写、名称を言えるようにする
- ③筋肉の名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え完璧に答えられるようにする（筆記、口頭ともに）

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	肩甲骨テスト 上腕骨の名称	第21回	大腿の屈筋テスト 大腿の内転筋
第2回	前腕骨テスト、手根骨の名称	第22回	下腿の伸筋 腓骨筋テスト 下腿の屈筋
第3回	肩甲骨、上腕骨テスト	第23回	足背の筋 中足筋テスト 母指球筋 小指球筋
第4回	骨盤全体テスト 寛骨の名称	第24回	下肢の筋肉確認テスト
第5回	大腿骨テスト 下腿骨の名称	第25回	骨の名称確認テスト
第6回	足根骨テスト 下肢の復習	第26回	骨の名称確認テスト
第7回	下腿骨テスト 足根骨テスト	第27回	上肢の筋肉画像テスト
第8回	頭蓋骨全体テスト 蝶形骨 側頭骨	第28回	下肢の筋肉画像テスト
第9回	上顎骨下顎骨テスト 頭蓋底	第29回	上肢の筋肉画像テスト
第10回	脊柱（脛骨～仙骨尾骨）	第30回	下肢の筋肉画像テスト
第11回	胸郭テスト 胸郭復習	第31回	上肢の筋肉画像テスト
第12回	脊柱テスト 胸郭テスト	第32回	下肢の筋肉画像テスト
第13回	筋肉ガイダンス 浅胸筋	第33回	上肢筋肉穴埋めテスト
第14回	浅胸筋テスト 上肢帯の筋	第34回	下肢筋肉穴埋めテスト
第15回	上腕の筋テスト 前腕屈筋	第35回	筋肉全体穴埋めテスト
第16回	前腕伸筋テスト 母指球筋	第36回	筋肉全体穴埋めテスト
第17回	小指球筋 中手筋テスト 上肢筋肉復習	第37回	筋肉全体穴埋めテスト
第18回	咀嚼筋 頸部の筋	第38回	筋肉全体穴埋めテスト
第19回	筆記テスト	第39回	
第20回	外寛骨筋テスト 大腿の伸筋	第40回	

授業時間外の学習

筋・骨格系を理解するには大変な時間を要する。よって日々の復習を習慣づけて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席を満たさない場合は不可とする。
1年間を通して、各点数（課題提出 確認テスト）の合計が120点/200点以上を単位認定ラインとする

使用テキスト

毎回資料を配布
授業では3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	総合演習 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
<p>国家試験対策を中心に進めていく 前期は必修対策 後期は以下内容で進める ①過去問、模試を数多く解くことで科目別、分野別の正答率を可視化する ②その結果をもとに自身の傾向を把握 ③分類化された問題の中から苦手分野の問題を徹底的につぶしていく</p>					
到達目標					
<p>過去問で90%以上、模試の正答率が80%以上 国家試験合格レベルまで到達することを目指す</p>					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	キャリアガイダンス				
第2回	必修対策（関係法規、社会保障と職業倫理）				
第3回	必修対策（関係法規、社会保障と職業倫理）1				
第4回	必修対策（関係法規、社会保障と職業倫理）2				
第5回	必修対策（関係法規、社会保障と職業倫理）3				
第6回	必修対策（関係法規、社会保障と職業倫理）4				
第7回	国家試験対策（苦手分野の抽出）1				
第8回	国家試験対策（苦手分野の抽出）2				
第9回	国家試験対策（苦手分野の抽出）3				
第10回	国家試験対策（苦手分野の抽出）4				
第11回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）1				
第12回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）2				
第13回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）3				
第14回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）4				
第15回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）5				
第16回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）6				
第17回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）7				
第18回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）8				
第19回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）9				
第20回	国家試験対策（柔道整復学 苦手科目克服講座）10				
授業時間外の学習					
授業外の時間、あらゆる隙間時間を過去問を解く時間に当てるのが望まれる					
成績評価					
特になし					
使用テキスト					
各科目教科書 プリント 問題集					
担当教員の実務経験					
施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する					

科目名	臨床実習事前指導	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗、塩崎 由規	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

柔道整復の基礎的な技術や知識を身につけ実行できるようになることを目的とする。また、実習先での立ち振る舞いについて学習し習得することを目的とする。

到達目標

臨床実習において施術の介助や接骨院での立ち振る舞いが身についているかを評価する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス
第2回	臨床実習の手引きについて
第3回	学生プロフィールの作成 1
第4回	学生プロフィールの作成 2
第5回	学生プロフィールの作成 3
第6回	学生プロフィールの作成 4
第7回	実習先の選択と企業学習
第8回	実習前に必要な基礎知識の確認
第9回	学生プロフィールの作成最終確認
第10回	実習内容の確認
第11回	実習の評価について
第12回	実習ノートの書き方と提出方法 1
第13回	実習ノートの書き方と提出方法 2
第14回	実習ノートの書き方と提出方法 3
第15回	実習ノートの書き方・事後指導について
第16回	実習の実施方法の確認
第17回	実習前に必要な基礎知識と応用
第18回	定期試験
第19回	試験解説
第20回	

授業時間外の学習

実習先はもちろん接骨院について、積極的に自ら調べ知ろうとする行動を心がける。また、実習先では1年次に習得した実技の技術や知識について確認されてもいように自己学習に励むことを推奨する。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。試験
範囲は柔道整復学理論編、解剖学、生理学および授業用プリントを含む。
成績評価は柔道整復学理論編、解剖学、生理学および課題の提出を含み総合的に評価する。
試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編、解剖学、生理学および授業用プリントのみを基準として申しでること。
試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。学生便
覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版
全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版
全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	基礎柔道整復実技1	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

教科書に合わせて競技者に対する外傷予防テーピングの理解、認定実技審査で問われるテーピングの内容の習得を行う。関節、筋についての構造を把握した上でより効果的なテーピングを施すことができるよう技術の向上を図る。教科書のみならず、参考書を引用し様々なニーズに対応できるテーピング法を学ぶ。

到達目標

競技者の外傷予防の教科書を中心にスポーツテーピングの方法、実際について理解できるようにする。テーピングの効果、効用を理解し、競技や状況に応じて適切なテーピングを施すことができるようにする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス（テーピングとは）	第21回	前期のおさらい
第2回	テーピングテープの切り方・貼り方	第22回	関節可動域（ROM）測定方法
第3回	アンダーラップの切り方・巻き方	第23回	四肢長の測定方法
第4回	足関節の構造について（機能解剖・触診）	第24回	section 2 実技 効果測定
第5回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング（前半：アンダーラップからスターアップまで）	第25回	section 2 実技 効果測定
第6回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング（後半：ホースシューからヒールロックまで）	第26回	section 3 実技 効果測定
第7回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング（まとめ）	第27回	section 3 実技 効果測定
第8回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング練習①	第28回	下腿部・足部の構造について（機能解剖・触診）
第9回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング練習②	第29回	下腿三頭筋および足底部のサポートテーピング
第10回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング練習③	第30回	大腿部の構造について（機能解剖・触診）
第11回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング練習④	第31回	大腿四頭筋およびハムストリングスのサポートテーピング
第12回	足関節外側靭帯損傷に対するテーピング練習⑤	第32回	section 4 実技 効果測定
第13回	膝関節の構造について（機能解剖・触診）	第33回	section 4 実技 効果測定
第14回	膝内側側副靭帯損傷に対するテーピング	第34回	section 5 実技 効果測定
第15回	足関節捻挫予防テーピングの応用①	第35回	section 5 実技 効果測定
第16回	足関節捻挫予防テーピングの応用②	第36回	種々のテーピング方法①
第17回	section 1 実技 効果測定	第37回	種々のテーピング方法②
第18回	section 1 実技 効果測定	第38回	種々のテーピング方法③
第19回	section 1 実技 効果測定	第39回	extra section 1 効果測定
第20回	section 1 実技 効果測定	第40回	extra section 2 効果測定

授業時間外の学習

授業で扱うテーピング法は全て教科書および配布資料に準ずる。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各sectionの合計点から前期section1、後期section2～5を合算し定期試験結果とする。各定期試験の結果の平均が60点以上で合格とする。成績評価は各sectionの効果測定期間でのみ行う。

EXTRAsectionでは、それまでに受けたすべての不合格sectionについて試験を受けることができる。

EXTRAsectionでは合格点に達したsectionまたは、その授業期間中に欠席が続いたsectionについては受験できない。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

競技者の外傷予防

包帯固定学 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	基礎柔道整復実技2	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

包帯による関節固定の基礎および、関節可動域測定を実施することができるようになる。

到達目標

基礎包帯固定学による固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法のほか、三角巾、固定材料の製作・固定および、関節可動域測定について行うことができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	包帯による関節固定の基礎および、関節可動域測定を実施することができるようになる。	第21回	打鍵槌 上肢
第2回	包帯取り扱いの基礎・包帯の各種名称	第22回	打鍵槌 下肢
第3回	巻軸帯の巻き方と注意事項	第23回	打鍵槌 病的反射
第4回	基本包帯法の理解	第24回	包帯と三角巾の利用方法
第5回	基本包帯法の実践	第25回	厚紙副子固定 手関節と足関節
第6回	基本包帯法試技	第26回	厚紙副子固定 手関節と足関節 復習
第7回	基本包帯法試技2	第27回	厚紙副子固定 手関節と足関節 復習2
第8回	基本包帯法試技3 section1	第28回	スタレ副子と厚紙副子固定 手指関節
第9回	基本包帯法試技4 section1	第29回	スタレ副子と厚紙副子固定 手指関節 復習
第10回	冠名包帯法の理解	第30回	アルミ副子固定 手指関節
第11回	冠名包帯法の実践	第31回	アルミ副子固定 手指関節2
第12回	冠名包帯法試技	第32回	効果測定1 section3
第13回	冠名包帯法試技2	第33回	効果測定2 section3
第14回	冠名包帯法試技3 section2	第34回	効果測定3 section3
第15回	冠名包帯法試技4 section2	第35回	効果測定4 section3
第16回	冠名包帯法試技5 section2	第36回	効果測定5 section3
第17回	三角巾の利用方法	第37回	効果測定6 section3
第18回	固定材料の理解	第38回	効果測定7 section3
第19回	総復習 EXTRAsection	第39回	総復習 EXTRAsection
第20回	総復習 EXTRAsection	第40回	総復習 EXTRAsection

授業時間外の学習

sectionにおける実技試験から定期試験の得点となることから、
 験発表後から実技室の使用を率先していただき、
 た各sectionは段階的に試験が高度になっていきます。
 として保っていくように努力を続けてください。

各sectionの試
 練習を重ねてください。ま
 実技の復習を重ねて、絶えず自身の技術

成績評価

基本包帯法では制限時間を設け各種関節の複数の基本包帯法から出題されます。Section1（10点）

冠名包帯法では制限時間を設け各冠名包帯から左右を指定し出題されます。

section2（20点）

関節可動域測定法・各種身体測定の種類試技のほか、厚紙副子またはスタレ副子による固定包を左右で指定し出題されますSection3（打鍵槌各種試技・口頭試験70点、厚紙副子またはスタレ副子による固定法50点）

使用テキスト

包帯固定学 第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床実習 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

接骨院に通院・見学したことが無い学生を鑑み、接骨院の業務、施術環境・技術や、柔道整復師としての心構えといったものに触れ、実務的な柔道整復師の職場環境への理解を目的とする。
見学実習を主として、実習中は院内の雑務についても実施する。

到達目標

- 1) 施設の概要（態度・言葉遣い・立ち振る舞い・施術に対する姿勢）を理解する。
- 2) 患者や家族とのふれ合いを通じて施術者の動向を観察し、初歩的な施術内容理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回		第21回	
第2回		第22回	
第3回		第23回	
第4回		第24回	
第5回		第25回	
第6回		第26回	
第7回		第27回	
第8回		第28回	
第9回		第29回	
第10回		第30回	
第11回		第31回	
第12回		第32回	
第13回		第33回	
第14回		第34回	
第15回		第35回	
第16回		第36回	
第17回		第37回	
第18回		第38回	
第19回		第39回	
第20回		第40回	

授業時間外の学習

柔道整復学、解剖学、生理学の基礎的理解から、指導者の聞き取りについて記載に間違いが無いように事前授業をすること。特に文章表現にあたり、文法、文脈、誤字脱字について事前の学習から注意を要すること。

成績評価

実習時間は4.5時間として実施する。
下記に「評価の視点」となる目標と評価について列挙する。

1. 日常態度
服装・容姿、挨拶・言葉遣い、時間・約束事、指示・指導に対する適切な応答
コミュニケーション（全人的評価・個人的評価）
積極性、患者対応、守秘義務・個人情報、社会性（社会適正・職業適性）

使用テキスト

当校指定の実習要項

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	スポーツ科学2	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	今井 公一	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
「知識だけでは良い指導は出来ないが、知識がないと良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を現場で活かせるように可能な限り実践も交えながら進めていく。					
到達目標					
1) 理論だけではなく、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。 2) 筋力トレーニングやストレッチの種類について理解し、説明・実施することができる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	コンディショニングとは				
第2回	パートナーストレッチの効果				
第3回	パートナーストレッチの基本				
第4回	下肢のパートナーストレッチ				
第5回	上肢のパートナーストレッチ				
第6回	目的別パートナーストレッチ1				
第7回	目的別パートナーストレッチ2				
第8回	姿勢評価				
第9回	動作評価				
第10回	コアスタビリティ				
第11回	ムーブメントエクササイズ				
第12回	ダイナミックコントロール				
第13回	心肺蘇生法				
第14回	安全管理				
第15回	定期試験				
第16回	総括				
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。 事後学習：講義で取り扱った内容を復習（実践）する。					
成績評価					
年間出席の2/3以上の出席と定期試験及び小テスト					
使用テキスト					
適宜指示する					
担当教員の実務経験					
パーソナルトレーナー、ストレングスコーチ					

2024年度

科目名	医療情報処理2	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	萩原 利彦	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、コンピュータの基本的な操作を習得する。本講義では、PowerPointを使ったプレゼンテーション方法および、表計算として広く普及しているMicrosoft Excelを通してデータ処理と活用を学ぶ。

到達目標

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	導入(授業概要、授業目標)、PowerPointの操作説明（スライドと発表）
第2回	PowerPoint1（デザイン・文字入力・文字の拡大・縮小）
第3回	PowerPoint2（図の挿入・図の着色）
第4回	PowerPoint3（アニメーション・画面切り替え）
第5回	PowerPoint4（写真の挿入・アプリでの加工）
第6回	PowerPoint5（presentationスライド作り）
第7回	PowerPoint6（presentation 動画化）
第8回	PowerPointまとめ プレゼンテーション発表
第9回	Excelの基礎1（起動と終了、セルとシート・データの入力と削除）
第10回	Excelの基礎2（データの移動・コピー、数式の入力、基本的な表計算）
第11回	Excelの基礎3（関数の取り扱い、書式設定、オートフィル）
第12回	Excelの基礎4（関数の活用とデータの集計、これまでのまとめ）
第13回	Excelの応用1（データ検索・置換・並び替え・フィルター機能の活用）
第14回	Excelの応用2（サンプルデータを利用した集計作業）
第15回	医療カルテを用いたExcelの実習
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

タイピングは日々練習することで速度が上がります。是非練習してみてください。また、Teams、UMU等のシステム利用や、ブラウザでの検索など、日々PCを使用してみてください。

成績評価

小テスト20%、実技試験80%
PowerPointはプレゼンテーション発表で評価する。
Excel処理については、実技試験を行う。

使用テキスト

毎回資料を配布する。

担当教員の実務経験

大学においてネットワーク管理者、情報科学担当としての実務経験を有する。

科目名	解剖学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

1年次に解剖学Ⅰでは生命の基本構造である細胞・組織・器官の形態的特徴から学習を始めた。その後、無意識下で生命を維持するための内臓である心臓、血管系、呼吸器系、泌尿器系について、位置、形態と構造の特徴、血管分布などについて理解を深めた。解剖学Ⅱでは、1年次に学んだ内容に引き続き、内臓としての消化器系を学ぶ。その後これまでに学習してきた臓器を適切に動かす調節系として内分泌系と神経系を理解する。この二大調節系は、全身を網羅して生命を維持し、さらにヒトとしての高次の活動を行うために非常に重要な器官である。続いて外界の刺激を脳に伝える感覚器と種族保存のための生殖器について学ぶことで、ヒトの体内の臓器や器官の構造を一通り理解することができる。

到達目標

必要最低限の基礎医学としての解剖学の知識が身につく、ヒトの体内の臓器や器官の構造と役割を相互の関係も含めて説明できるようになることを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	消化器系1	第21回	解剖学Ⅱ 復習とまとめ1
第2回	消化器系2	第22回	解剖学Ⅱ 復習とまとめ2
第3回	消化器系3	第23回	解剖学Ⅱ 定期試験解説とまとめ
第4回	消化器系4		
第5回	内分泌系1		
第6回	内分泌系2		
第7回	内分泌系3		
第8回	内分泌系4		
第9回	神経系1		
第10回	神経系2		
第11回	神経系3		
第12回	神経系4		
第13回	神経系5		
第14回	神経系6		
第15回	感覚器系1		
第16回	感覚器系2		
第17回	感覚器系3		
第18回	生殖器系1		
第19回	生殖器系2		
第20回	生殖器系3		

授業時間外の学習

動画の内容を理解し、課題を全問正解できるまで繰り返し視聴する。

成績評価

定期試験と小テストで60点以上得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社

担当教員の実務経験

医学部研究室に25年間常勤教員として勤務し、寄生虫学・アレルギー学・糖尿病学の研究および教育として薬理学実習、実験動物医学担当。その後非常勤講師として、医学部、獣医学部、医学系専門学校において、生理学講義及び実習、薬理学、生物学、寄生虫学講義及び実習に従事し、現在に至る。

2024年度

科目名	生理学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位

授業概要

1年次の生理学Ⅰでは生理学を学ぶ目的であるホメオスタシス＝人体内で健康状態を保つために行っている各器官の働きについて、無意識下の自律的機能について学んできた。合わせて基本的な医学用語や生理学的な表現を習得してきた。
2年次の生理学Ⅱでは、生理学Ⅰの基礎知識を踏まえて、内臓の働きを調節する二大調節系である内分泌と神経の働きを理解することが第一の目的である。この二大調節系がホメオスタシスの根本である。
さらにこれまでの無意識下の自律的な機能に加えて、意識の領域で外界の刺激を受け取る感覚機能と外界に働きかける運動機能を習得する。

到達目標

生理学を学ぶ目的であるホメオスタシスについて、内分泌系と神経系の機能を理解して説明できるようになる。また意識的に行われる感覚機能と運動機能についても習得することを目的とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	消化と吸収 1	第21回	生理学Ⅱ 復習とまとめ 1
第2回	消化と吸収 2	第22回	生理学Ⅱ 復習とまとめ 2
第3回	消化と吸収 3	第23回	生理学Ⅱ 定期試験解説とまとめ
第4回	内分泌1		
第5回	内分泌2		
第6回	内分泌3		
第7回	生殖1		
第8回	生殖2		
第9回	骨の生理学		
第10回	神経1		
第11回	神経2		
第12回	神経3		
第13回	神経4		
第14回	筋肉1		
第15回	筋肉2		
第16回	運動1		
第17回	運動 2		
第18回	感覚1		
第19回	感覚2		
第20回	体温		

授業時間外の学習

何も見なくても課題を解けるようになるまで、動画を繰り返し視聴し、教科書の内容を理解する。また、YouTubeや他の専門書も参考にして理解を深めてほしい。

成績評価

定期試験と小テストで60点以上得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社

担当教員の実務経験

医学部研究室に25年間常勤教員として勤務し、寄生虫学・アレルギー学・糖尿病学の研究および教育として薬理学実習、実験動物医学担当。その後非常勤講師として、医学部、獣医学部、医学系専門学校において、生理学講義及び実習、薬理学、生物学、寄生虫学講義及び実習に従事し、現在に至る。

2024年度

科目名	人体の構造と機能の変化	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
高齢者の生理的特性と変化について、細胞レベルから循環器・呼吸器・運動器・神経系の組織的変化まで理解する。これらの退行性変化と高齢者に多い疾患や障害との関連を学ぶ。 一方、小児から成人への成長と発達の過程を理解し、トレーニングや競技の影響を知る。					
到達目標					
高齢者の退行性変化と障害や疾患との関連を説明できるようになる。小児から成人への成長と発達を理解し、高齢者の加齢性変化との違いを知ることが目的とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	細胞・組織の加齢現象、加齢による神経系の変化				
第2回	加齢による骨格筋の変化				
第3回	加齢による骨の変化				
第4回	加齢による視覚の変化				
第5回	加齢による聴覚・前庭感覚の変化				
第6回	加齢による循環・呼吸器系の変化				
第7回	加齢による消化器系・皮膚の変化、加齢と歯周病				
第8回	加齢による内分泌系の変化				
第9回	高齢者に多い疾患・障害				
第10回	若年成人の生活習慣と疾患				
第11回	運動と加齢				
第12回	身体の発育と発達、運動の発達と習熟				
第13回	復習1				
第14回	復習2				
第15回	定期試験				
第16回	定期試験解説とまとめ				
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
成績評価					
定期試験と小テストの成績によって判定する。					
使用テキスト					
生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	運動学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	高橋 将	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位

授業概要

運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を理解し、運動学の基礎知識を身につけることを目的とする。初めて運動学を履修する学生に対し、基本的な内容を講義していく。ただし、力学の分野などでは高校で履修した物理の知識が要求される。苦手だった人は基本的な内容で構わないので復習をしておいてほしい。また、解剖学や生理学の分野で履修する「神経系（特に反射）」「感覚器系」「運動器系（特に筋系）」などについてあらためて復習する良い機会となる。苦手意識のある人はここでしっかりと理解してほしい。これらの内容（多くが前半にある）は予習を、後半の内容は復習をしっかりと行い、国家試験の過去の問題演習などを通じて、各章の押さえるべき基本的な内容を説明できるレベルになることを期待する。

到達目標

教科書で紹介されている運動学の基礎知識（身体運動と力学、運動器の構造と理解、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習等）を理解すること。運動障害の分析方法を学び、正常運動と比較し説明出来るようになること。また、運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を総合的に理解することで、運動学の知識を応用させることができるようになることを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション運動学の領域と目的、運動のとらえ方と表し方	第21回	体幹と筋機能Ⅰ
第2回	身体運動と力学Ⅰ	第22回	体幹と筋機能Ⅲ
第3回	身体運動と力学Ⅱ	第23回	振り返り、まとめ
第4回	運動器の構造と機能		
第5回	神経の構造と機能		
第6回	運動感覚		
第7回	反射と随意運動Ⅰ		
第8回	反射と随意運動Ⅱ		
第9回	姿勢Ⅰ		
第10回	姿勢Ⅱ		
第11回	歩行Ⅰ		
第12回	歩行Ⅱ		
第13回	運動発達		
第14回	運動学習		
第15回	上肢関節と筋機能Ⅰ		
第16回	上肢関節と筋機能Ⅱ		
第17回	上肢関節と筋機能Ⅲ		
第18回	下肢関節と筋機能Ⅰ		
第19回	下肢関節機能と筋Ⅱ		
第20回	下肢関節機能と筋Ⅲ		

授業時間外の学習

講義では教科書以外に内容をまとめたプリントを配布する。基本的な事項だけを取り上げているので、最低限、この内容の復習を行ってほしい。初めて習う内容は予習が難しいと思われるので、まずは復習をしっかりと行ってほしい。また、他科目で既に履修している内容、関連する事項を履修することも多々あるので、これらを履修した際に関連科目も併せて復習することで理解度が増し、一見、理解しにくい基礎医学科目を学ぶことが楽しいと実感できるはずだ。

成績評価

“各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。
試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。
試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。
試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。
学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。”

使用テキスト

運動学改訂第3版（医歯薬出版株式会社）

担当教員の実務経験

企業所属選手の専任トレーナーとしての実務経験を有する

2024年度

科目名	病理学概論	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡邊 義隆	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

病理学の基本的知識を身に付け、病的状態の分類や代表的な疾患の原因、その症状などを理解することを目的とする。初めて病理学を履修する学生に対し、基本的な内容を講義していく。病理学は「身体の異常時の状態」を学ぶため、「身体の正常時の状態」を学ぶ生理学の基本的な知識が要求される。生理学に苦手意識のある人はこれを機会に復習を充分してほしい。他にも衛生学・公衆衛生学など他科目で履修する分野とリンクする内容も少なくない。「幸い今まで病気にはあまり縁がない」ため、様々な病気の機序～転帰までを初めて学ぶことが難しいと感じる人も多いと思われる。しかし、講義中には基本的な内容の国家試験の過去出題された問題の演習も取り入れるので、興味深く学んで頂き、基本的な事項を説明できるレベルになってほしい。

病理学「概論」となっているのは、本講座では病理標本を顕微鏡で観察し、ミクロの視点から学ぶ機会が残念ながらもためである。教科書の最初に「口絵」として正常な像も一部含んだ、様々な疾患の細胞・組織の像が掲載されている。これは、現行の第3版から登場したものであり、現時点での国家試験でもたびたび登場するが、従来の基本的な内容については引き続き紹介する予定である。

到達目標

柔道整復師が临床上必要とすべき病理学領域は以下の点であり、これらを理解し、説明できるようになることを目標とする。まず、教科書の最初に紹介されている「病理学とはどのような学問か」「疾病の分類」などを1章および2章で学んでいく。次に、病気の原因や成り立ちなどの基本的知識を「細胞障害」「循環障害」等の項目が1つの章として成り立っており、これを通じて学び、病気がおこり、病状が進行していくかを理解する。さらに、それら各領域の代表的な疾患の名称や症状などを理解し、説明できるようになっていくことを目標とする。

最初は病気とその原因との因果関係を理解するのは難しいかもしれない。しかし、今後履修する臨床科目において、そのような視点で学んでいくことは重要であり、難しい用語・病名などを理解していくことが臨床に携わる者の必須事項であることをまず理解して本講座と向き合ってほしい。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション、第1章「病理学の基礎」第2章「疾病の一般」
第2回	第3章「細胞障害」前半（色素代謝異常まで）
第3回	第3章「細胞障害」後半（最後まで）
第4回	第4章「循環障害」前半
第5回	第4章「循環障害」後半
第6回	第5章「進行性病変」
第7回	第6章「炎症」前半（炎症の経過による分類まで）
第8回	第6章「炎症」後半（最後まで）
第9回	第7章「免疫異常・アレルギー」
第10回	第8章「腫瘍」①（腫瘍の増殖と進展まで）
第11回	第8章「腫瘍」②（良性腫瘍）
第12回	第8章「腫瘍」③（悪性腫瘍）
第13回	第9章「先天性病変」
第14回	第10章「病因」前半（物理的外因の温度まで）
第15回	第10章「病因」後半（最後まで）

授業時間外の学習

初めて学ぶ人にとっては、難しい用語、カタカナのよくわからない病名など、勉強しにくいかもしれない。しかし、様々な情報が飛び交う昨今、病理学を学ぶヒントとなる情報も実は多く存在する。例えば、有名人がある病気に罹患し、それをSNSで公表するなどである。病名をネットで調べれば、多くの情報を得ることが可能である。こうした情報を上手く活用することで無味乾燥なひたすら病気を暗記することより理解力は深まるであろう。本講座では予習よりも復習を大切にしてほしいが、関連する生理学の内容については、事前に復習した上で講義に臨んでほしい。

成績評価

定められた期日までに出席評価（動画の視聴・課題の提出）が全て完了していることが、定期試験受験資格となる。試験範囲は教科書＋講義の動画内容による出題である。試験はいずれも50題程度の四択国家試験方式での出題を行う予定である（試験問題には図や表などを用いた問題を含む）。試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。また、小テストの結果も考慮する。学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

病理学改訂第3版（医歯薬出版株式会社） 教科書の内容をまとめたパワーポイントによる学習と学習課題、小テストを通じて理解を深めていく。自学の際に参考となる資料を講義中に紹介する予定である。

担当教員の実務経験

歯科医院等において歯科医師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	一般臨床医学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	平賀 篤、渡邊 修司	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位

授業概要

柔道整復師を目指す上で必要となる診察の基本と内科疾患や神経疾患、運動器疾患など多彩な疾患概念を学び、将来臨床現場で注意を払わなければならない症状や所見の理解を深める。

到達目標

診察から得られる兆候と病態を関連付けることができる。検査異常と疾患を関連付けることができる。内部障害・神経障害・感染症など主な疾患を理解できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	診察-医療面接-視診	第21回	感染症各論
第2回	打診・聴診・触診	第22回	リウマチ・膠原病・アレルギー
第3回	生命兆候	第23回	定期試験
第4回	感覚検査・反射検査	第24回	解説
第5回	代表的な臨床症状：発熱・出血傾向	第25回	
第6回	代表的な臨床症状：リンパ節腫脹-やせ	第26回	
第7回	検査法：生理機能検査	第27回	
第8回	検体検査、前半まとめ	第28回	
第9回	呼吸器疾患	第29回	
第10回	循環器疾患	第30回	
第11回	消化器疾患総論	第31回	
第12回	消化器疾患各論	第32回	
第13回	代謝疾患	第33回	
第14回	内分泌疾患	第34回	
第15回	血液・造血器疾患	第35回	
第16回	腎・尿路疾患総論	第36回	
第17回	腎・尿路疾患各論	第37回	
第18回	神経疾患総論	第38回	
第19回	神経疾患各論	第39回	
第20回	感染症総論	第40回	

授業時間外の学習

- ・授業時に提示した課題を中心として関連知識について教科書をベースに復習を行うこと。
- ・シラバスは教科書の小項目と連動しているため、事前に該当箇所のページを読み込み不明点を調べておくこと。
- ・関連する国家試験問題の予習復習を行うこと。

成績評価

定められた期日までに出席評価（動画の視聴・課題の提出）がすべて完了していることが、定期試験資格となる。定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は、定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

一般臨床医学 改訂第3版 南江堂

担当教員の実務経験

2024年度

科目名	整形外科学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	志村 圭太	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

本科目では、多種多様な整形外科疾患の概要（病態、診断、治療、リスク管理）を理解すべく、柔道整復師が日常業務で遭遇する頻度の多い運動器疾患から若年者のスポーツ傷害まで網羅的に学修する。履修にあたっては運動器の基礎を理解していることが重要であり、これまで学修した運動学、解剖学、生理学を十分に復習しておくことが望ましい。講義中心の授業ではあるが、問題演習が含まれるため、学生の積極的な参加が望まれる。

到達目標

- 1.骨、関節、筋、靭帯、腱を主とする運動器の構造と機能について説明できる
- 2.整形外科で用いられる診察法、検査法、治療法の概要を説明できる
- 3.骨関節損傷の概要を説明できる
- 4.代表的な整形外科疾患（第3回-5回；疾患別各論）の概要を説明できる
- 4.四肢と体幹の主要な運動器疾患の病態、診断、治療の概要を説明できる

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法
第2回	整形外科的治療法、骨関節損傷総論
第3回	疾患別各論；感染性疾患、腫瘍、非感染性軟部・骨関節疾患（前半）、全身の骨・軟部疾患（前半）
第4回	非感染性軟部・骨関節疾患（後半）、全身の骨・軟部疾患、疾患別各論；骨端症、四肢循環障害
第5回	疾患別各論；神経・筋疾患、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論
第6回	第1-5回の振り返りとまとめ 問題演習 定期テスト・国家試験対策
第7回	身体部位別各論；頸椎、胸椎、腰椎
第8回	身体部位別各論；肩、肩甲帯
第9回	身体部位別各論；上腕、肘関節
第10回	身体部位別各論；手関節、手指
第11回	身体部位別各論；骨盤、股関節
第12回	身体部位別各論；大腿骨、膝関節
第13回	身体部位別各論；下腿、足関節、足趾
第14回	第7-13回の振り返りとまとめ 問題演習
第15回	第1-14回の振り返り 問題演習 定期テスト・国家試験対策
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学修：運動学、解剖学を中心として、これまで学習した運動器に関連する講義を復習する。また教科書の各回該当範囲を一読する。
事後学習：講義資料と教科書を照らし合わせ復習する。小テストで不正解の項目について重点的に復習する。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。
最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。
※小テストを実施しない場合は、定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

教科書：全国柔道整復学校協会監修.整形外科学.改訂第4版.南江堂.2017
毎回講義資料を配布する。
参考書ならびに文献は授業内で適宜紹介する。

担当教員の実務経験

理学療法士として医療機関およびスポーツ現場においての実務経験を有する

2024年度

科目名	柔道Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	水村 麻輝	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
精力善用 自他共栄の精神を身につけさせる。 攻防の形が正しくできて、基本的な投げの形を身に付ける。					
到達目標					
認定実技審査を合格するための技術を80%までを目標とする。 ・柔道着の着方 ・礼法（立礼 拝礼 座礼） ・基本動作 ・受身 ・講道館投の形（手技～足技） ・約束乱取で投げられるところまで					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	礼法 基本動作 投の形（手技）				
第2回	礼法 基本動作 投の形（腰技）				
第3回	礼法 基本動作 投の形（足技）				
第4回	礼法 基本動作 投の形（手技）約束乱取				
第5回	礼法 基本動作 投の形（腰技）約束乱取				
第6回	礼法 基本動作 投の形（足技）約束乱取				
第7回	中間試験（形、約束乱取）				
第8回	礼法から約束乱取（試合形式）①				
第9回	礼法から約束乱取（試合形式）②				
第10回	礼法 基本動作 投の形確認（手技）約束乱取				
第11回	礼法 基本動作 投の形確認（腰技）約束乱取				
第12回	礼法 基本動作 投の形確認（足技）約束乱取				
第13回	礼法 基本動作 約束乱取で使う技の研究				
第14回	礼法 基本動作 投の形（手技～足技）約束乱取				
第15回	期末試験				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：怪我の防止のために授業前から柔軟を行う。 事後学習：形、技の精度の確認のために授業終了前に確認を行う。					
成績評価					
期末試験100%で評価する。					
使用テキスト					
柔道着					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	基礎柔道整復学V	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	岩井 一步	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

全身におきる脱臼について学び、推測される症状所見から適切な整復・固定ができるように知識を養う。

到達目標

脱臼はもちろんのこと、同様の発生機序から想定できる骨折や軟部組織損傷との鑑別ができるようになるための知識を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス	第21回	股関節の解剖学
第2回	脱臼の総論	第22回	股関節脱臼
第3回	脱臼の総論2	第23回	膝関節の解剖
第4回	顎関節脱臼	第24回	膝蓋骨脱臼
第5回	頸椎脱臼	第25回	膝関節脱臼2
第6回	胸椎脱臼	第26回	足部の解剖学
第7回	肩関節の解剖	第27回	ショパール関節・リスフラン関節脱臼
第8回	鎖骨の脱臼	第28回	中足趾節関節の脱臼
第9回	肩関節脱臼	第29回	頸部疾患の類症鑑別
第10回	反復性肩関節脱臼	第30回	腰背部疾患の類症鑑別
第11回	肘関節の解剖	第31回	肩関節周囲の類症鑑別
第12回	肘関節脱臼	第32回	上腕・肘部の類症鑑別
第13回	肘内障	第33回	手指部の類症鑑別
第14回	手関節部の解剖	第34回	股関節周囲の類症鑑別
第15回	手関節部の脱臼	第35回	膝部の類症鑑別
第16回	手根骨の脱臼	第36回	足趾の類症鑑別
第17回	手部の脱臼	第37回	まとめ1
第18回	手指の脱臼2	第38回	まとめ2
第19回	前期まとめ	第39回	まとめ3
第20回	解説	第40回	解説

授業時間外の学習

授業時間外でも予習・復習をし向学心をもって授業に臨むこと。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、各教科に定められた定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版
南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

柔道整復学理論編・実技編に掲載されている軟部組織の損傷について患者さんを想定した際の対応として求められる知識を学ぶ。

到達目標

現場で軟部組織損傷を鑑別診断するための能力と対応力を養うべく基本的な知識を学び、応用として自分で判断し、説明できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	頭部・顔面部の軟部組織損傷	第21回	上腕部の軟部組織損傷①
第2回	画像診断（上肢①）	第22回	前腕部の軟部組織損傷
第3回	頸部・胸背部の軟部組織損傷①	第23回	上腕部の軟部組織損傷②
第4回	画像診断（上肢②）	第24回	手関節・手指の軟部組織損傷
第5回	頸部・胸背部の軟部組織損傷②	第25回	股関節の軟部組織損傷①
第6回	画像診断（上肢③）	第26回	膝関節の軟部組織損傷①
第7回	頸部・胸背部の軟部組織損傷③	第27回	股関節の軟部組織損傷②
第8回	画像診断（上肢④）	第28回	膝関節の軟部組織損傷②
第9回	腰部の軟部組織損傷①	第29回	股関節の軟部組織損傷③
第10回	画像診断（下肢①）	第30回	下腿部の軟部組織損傷
第11回	腰部の軟部組織損傷②	第31回	大腿部の軟部組織損傷①
第12回	画像診断（下肢②）	第32回	足関節・足部の軟部組織損傷①
第13回	腰部の軟部組織損傷③	第33回	大腿部の軟部組織損傷②
第14回	画像診断（下肢③）	第34回	足関節・足部の軟部組織損傷②
第15回	肩関節の軟部組織損傷①	第35回	体幹・四肢中枢部の軟部組織損傷まとめ
第16回	画像診断（下肢④）	第36回	画像診断・末梢部軟部組織損傷まとめ
第17回	肩関節の軟部組織損傷②	第37回	体幹・四肢中枢部の軟部組織損傷試験解説
第18回	画像診断（その他外傷）	第38回	画像診断・末梢軟部組織損傷試験解説
第19回	肩関節の軟部組織損傷③		
第20回	肘関節の軟部組織損傷		

授業時間外の学習

自己研鑽のために授業外でも自学自習にはげむこと。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。

試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。

試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版

南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	総合演習 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	三野 勝大、黒岩 亮太	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

解剖学的・生理学的専門知識を深め、臨床において疾患の病態を把握認識し簡便に一般的用語に置き換え示すことができる。

到達目標

柔道整復施術適応疾患の鑑別・病態把握の評価および治療法の決定に至る確定診断能力の基盤として解剖学・生理学を臨床に即して説明できるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回		第21回	1.筋組織（骨格筋の構造と機能）
第2回	細胞の構造と機能（細胞内小器官）	第22回	2.筋組織（骨格筋の分類・反射）
第3回	細胞の構造と機能（体液と活動電位）	第23回	1.生殖器系の構造と機能（男性）
第4回	1. 組織の特性（上皮組織・支持組織・神経組織）	第24回	2.生殖器系の構造と機能（女性）
第5回	2. 組織と特性（上皮組織・支持組織・神経組織）	第25回	1.内分泌系の構造と機能
第6回	1.循環器系の構造と機能（心臓の構造・血管）	第26回	2.内分泌系の構造と機能
第7回	2. 循環器系の構造と機能（心臓の機能・血管）	第27回	3.内分泌系の構造と機能
第8回	1.呼吸器系の構造と機能	第28回	1.神経系（中枢神経の構造と機能）
第9回	2.呼吸器系の構造と機能（換気のしくみ）	第29回	2.神経系（中枢神経の構造と機能）
第10回	1.血液（赤血球・白血球・血小板の特性）	第30回	3.神経系（末梢神経の構造と機能）
第11回	2.血液（赤血球・白血球・血小板の特性）	第31回	4.神経系（自律神経の構造と機能）
第12回	1.泌尿器系の構造と機能	第32回	5.神経系（脳神経の構造と機能）
第13回	2.泌尿器系の構造と機能（尿の生成・腎血流量）	第33回	1. 感覚器系（特殊感覚の構造と機能）
第14回	1.消化器系の機能と構造	第34回	2. 感覚器系（特殊感覚の構造と機能）
第15回	2.消化器系の機能と構造	第35回	3. 感覚器系（体性感覚の構造と機能）
第16回	3.消化器系の機能と構造（消化と吸収）	第36回	4. 感覚器系（体性感覚の構造と機能）
第17回	1.栄養と代謝	第37回	体温とその調節
第18回	2.栄養と代謝	第38回	復習（演習問題）
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	解答・解説	第40回	解答・解説

授業時間外の学習

毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でもうけることが望まれる。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として、小テストを含めた総合評価を行う。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修
生理学（改訂第4版）
解剖学（改訂第2版）

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復実技1	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	黒岩 亮太	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
包帯また固定材料を応用した臨床的な固定法および、骨折・脱臼の徒手整復、腱板損傷に対する徒手検査法を実施することができるようになる。					
到達目標					
基礎包帯固定学を基にする固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、硬性材料を用いて実際の疾患を想定した固定法の選択・実践および、整復法・徒手検査法について行うことができる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容		
第1回	ガイダンス	第21回	肘内障（病態・エコー所見と整復法）		
第2回	基本包帯法復習	第22回	腱板損傷（基礎とエコー所見）		
第3回	硬性固定の種類と作成	第23回	腱板損傷（徒手検査法）		
第4回	硬性固定の種類と作成	第24回	腱板損傷（復習）		
第5回	肩関節前方脱臼	第25回	試験1 section3		
第6回	肩関節前方脱臼2	第26回	試験2 section3		
第7回	肩関節前方脱臼3	第27回	試験3 section3		
第8回	試験1 section1	第28回	橈骨遠位端骨折1		
第9回	試験2 section1	第29回	橈骨遠位端骨折2		
第10回	試験3 section1	第30回	橈骨遠位端骨折3		
第11回	シュガートングシーネ	第31回	試験1 section4		
第12回	サムスパイカギブス	第32回	試験2 section4		
第13回	グリップキャスト	第33回	試験3 section4		
第14回	第2指PIP関節背側脱臼1	第34回	まとめ2 EXTRAsection		
第15回	第2指PIP関節背側脱臼2	第35回	まとめ3 EXTRAsection		
第16回	第2指PIP関節背側脱臼3	第36回	総復習1		
第17回	試験1 section2	第37回	総復習2		
第18回	試験2 section2	第38回	OSCE1		
第19回	試験3 section2	第39回	OSCE2		
第20回	まとめ EXTRAsection	第40回	OSCE3		
授業時間外の学習					
sectionにおける実技試験から定期試験の得点となることから、各sectionの試験発表後から実技室の使用を率先していただき、練習を重ねてください。 実技の復習を重ねて、絶えず自身の技術として保っていくように努力を続けてください。					
成績評価					
肩関節前方脱臼では制限時間を設け複数の固定法から出題されます。section1（50点） 第2指PIP関節背側脱臼では制限時間を設け硬性材料を用いた固定法が出題されます。section2（50点） 腱板損傷では制限時間を設け複数の徒手検査法と口頭試問から出題されます。section3（40点） 橈骨遠位端骨折では実際の症例を想定し助手と共に適切な処置を行えるかを評価します。section4（60点）					
使用テキスト					
配布資料					
担当教員の実務経験					
施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する					

2024年度

科目名	臨床柔道整復実技2	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	岩井 一步	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

sectionにおける実技試験から定期試験の得点となることから、
 試験発表後から実技室の使用を率先していただき、
 た各sectionは段階的に試験が高度になっていきます。
 として保っていくように努力を続けてください。

各sectionの試験
 練習を重ねてください。また
 実技の復習を重ねて、絶えず自身の技術

到達目標

実際の患者さんの治療にあたり、学んだ検査法や固定法を用いて根拠に基づいた臨床的判断が出来るようになることを到達目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス	第21回	膝部に対しての硬性材料の用い方
第2回	足関節に対しての硬性材料の用い方	第22回	膝部に対しての硬性材料の用い方
第3回	足関節に対しての硬性材料の用い方	第23回	膝部に起きる疾患に対する固定
第4回	足関節周囲の疾患に対する固定	第24回	膝部に起きる疾患に対する固定
第5回	足関節周囲の疾患に対する固定	第25回	膝部に起きる疾患に対する固定
第6回	足関節周囲の疾患に対する固定	第26回	膝部に起きる疾患に対する固定
第7回	足関節周囲の疾患に対する固定	第27回	膝部に起きる疾患に対する固定
第8回	足関節周囲の疾患に対する固定	第28回	膝部に起きる疾患に対する固定 Section 3
第9回	足関節周囲の疾患に対する固定	第29回	膝部に起きる疾患に対する固定 Section 3
第10回	足関節周囲の疾患に対する固定 Section 1	第30回	徒手検査と臨床的判断
第11回	足関節周囲の疾患に対する固定 Section 1	第31回	徒手検査と臨床的判断
第12回	足部に対しての硬性材料の用い方	第32回	徒手検査と臨床的判断
第13回	足部に対しての硬性材料の用い方	第33回	徒手検査と臨床的判断
第14回	足部に起きる疾患に対する固定	第34回	徒手検査と臨床的判断
第15回	足部に起きる疾患に対する固定	第35回	徒手検査と臨床的判断 Section 4
第16回	足部に起きる疾患に対する固定	第36回	徒手検査と臨床的判断 Section 4
第17回	足部に起きる疾患に対する固定 Section 2	第37回	徒手検査と臨床的判断 Section 4
第18回	足部に起きる疾患に対する固定 Section 2	第38回	徒手検査と臨床的判断 Section 4
第19回	総復習EXTRA Section	第39回	総復習EXTRA Section
第20回	総復習EXTRA Section	第40回	総復習EXTRA Section

授業時間外の学習

各sectionの試験発表後から実技室の使用を率先していただき、
 各sectionは段階的に試験が高度になっていきます。
 して保っていくように努力を続けてください。

練習を重ねてください。また
 実技の復習を重ねて、絶えず自身の技術と

成績評価

足部の固定法では制限時間を設け複数の装具の中から出題されます。 Section1 (50点) 足趾の固定法
 では制限時間を設けアルミ副子を用いた固定が出題されます。 section2 (30点)
 膝部の固定では制限時間を設け複数の装具の中から出題されます。 Section3 (50点)
 年間通しての出題項目に対し臨床的判断に基づき想定される疾患に対し、適切な固定が出来るかどうかを判断する
 Section4 (70点)

使用テキスト

柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・実技編 改定第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	高齢者外傷予防	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

高齢者の転倒予防を中心に身体感と身体機能の維持・増進について理解できる。

到達目標

機能訓練指導法についてディスカッションを行い柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解、機能訓練指導員と機能訓練、機能訓練で提供する運動と要点及び注意点などについて説明し、転倒・骨折・筋力維持・関節拘縮に対する機能訓練指導ができるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・発達と老化の理解
第2回	機能訓練指導員と機能訓練
第3回	認知症の理解
第4回	柔道整復師と介護保険と介護保険制度
第5回	介護課程とICF
第6回	高齢者の生理学
第7回	ロコモティブシンドローム
第8回	高齢者自立支援
第9回	機能訓練のアセスメント
第10回	機能訓練指導概要
第11回	機能訓練指導の選択
第12回	機能訓練で提供する運動と要点（機能訓練測定法）
第13回	機能訓練で提供する運動と要点（機能訓練測定法2）
第14回	機能訓練測定法ロールプレイ
第15回	機能訓練測定法ロールプレイ2
第16回	まとめ・振り返り
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

定期試験は筆記と実技の評価を合算し判断するため日々の学習について復習を推奨する。なお当授業は臨床実習Ⅱの事前指導（OSCE）を含み成績に不可のある場合、臨床実習Ⅱに参加できない。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席として実技試験を行う。
詳細は別途冊子にして動画をふくみ詳細を連絡する。

使用テキスト

その都度資料を配布します。

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	競技者外傷予防	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

競技者に対し外傷予防策を講じる上で、競技者の身体特性や外傷・障害の発生メカニズムの理解は必要不可欠である。更には、姿勢や動作を評価・分析する能力、トレーニング方法を実施・処方する能力は競技者に対してのみならず、一般の人や高齢者を指導する際にも求められる必須のスキルである。

本授業では、理論に基づき種々のエクササイズやトレーニング法を実践し、様々な状況を想定したディスカッションを繰り返すことで、適切に外傷予防プログラムの立案および指導ができるようになることを目的とする。

尚、授業内ではレポート課題の提出を求めることがある。

到達目標

- 1、競技者の身体特性・運動特性を正確に把握することができる。
- 2、競技毎の特性を理解し説明することができる。
- 3、エクササイズ・トレーニングの目的と方法を理解し正しく実践することができる。
- 4、目的に応じたエクササイズ・トレーニング計画の立案および運動処方を行うことができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	運動生理学（エネルギー代謝・運動と骨・筋）
第2回	スポーツ現場における救急処置法（運搬法・RICE処置・AED・CPR）
第3回	メディカルチェック・フィジカルチェックとフィードバック方法
第4回	動作の観察と分析
第5回	パフォーマンステストとフィードバック方法
第6回	スタティックストレッチングの理論と実践
第7回	スポーツマッサージの方法と実際
第8回	モビリティエクササイズの理論と実践
第9回	レジスタンストレーニングの理論と実践
第10回	バランス・スタビリティトレーニングの理論と実践
第11回	スピード・アジリティトレーニングの理論と実践
第12回	アスレティックリハビリテーションの立案
第13回	競技特性から考える外傷予防法の概論
第14回	競技別外傷予防法の立案と実践 ①
第15回	競技別外傷予防法の立案と実践 ②
第16回	競技別外傷予防法の立案と実践 ③
第17回	定期試験
第18回	定期試験 解説
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

授業で学んだことを繰り返し復習し、自らの体を使って理解できるように学習する。また、学んだエクササイズやトレーニング方法などを他者に指導し、自己学習していくことを推奨する。

また、全てのエクササイズ・トレーニング方法は解剖学・生理学の上に成り立っている。適宜、解剖学書等を参照することが望ましい。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、各教科に定められた定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 競技者の外傷予防 第1版
アスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス 文光堂

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床実習Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

柔道整復師が接骨院以外の多種多様な職域に触れ、柔道整復師が内在すべき社会人としての協調性を獲得し、他業種連携に向けた柔軟な感性を獲得することを目的とする。

到達目標

- 1) 介護福祉施設：介護施設における機能訓練指導員としての実務を理解する。
- 2) スポーツ関連：トレーナーの業務およびチームの一員としての在り方を理解する。
- 3) 整形外科：整形外科における柔道整復師の業務について理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回		第21回	
第2回		第22回	
第3回		第23回	
第4回		第24回	
第5回		第25回	
第6回		第26回	
第7回		第27回	
第8回		第28回	
第9回		第29回	
第10回		第30回	
第11回		第31回	
第12回		第32回	
第13回		第33回	
第14回		第34回	
第15回		第35回	
第16回		第36回	
第17回		第37回	
第18回		第38回	
第19回		第39回	
第20回		第40回	

授業時間外の学習

成績評価

実習時間は4.5時間として実施する。
下記に「評価の視点」となる目標と評価について列挙する。

1. 日常態度
服装・容姿、挨拶・言葉遣い、時間・約束事、指示・指導に対する適切な応答
コミュニケーション（全人的評価・個人的評価）
積極性、患者対応、守秘義務・個人情報、社会性（社会適正・職業適性）

使用テキスト

当校指定の実習要項

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床実習Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

認定実技試験に即した内容を踏まえ、臨床現場と教育の連携を目的とする。
認定実技試験の試験内容を試技として、「試験の合格水準」が技術の到達点ではなく、「臨床現場での実例」に生じる差異についてご指導する。
学校から臨床現場に出る学生に向けて、
技術の向上と柔道整復師としての今後の技術研鑽の必要性について観ずる機会とする。

到達目標

修復法・固定法・検査法について臨床現場としての知識・技術に即した対応を身に着けることができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回		第21回	
第2回		第22回	
第3回		第23回	
第4回		第24回	
第5回		第25回	
第6回		第26回	
第7回		第27回	
第8回		第28回	
第9回		第29回	
第10回		第30回	
第11回		第31回	
第12回		第32回	
第13回		第33回	
第14回		第34回	
第15回		第35回	
第16回		第36回	
第17回		第37回	
第18回		第38回	
第19回		第39回	
第20回		第40回	

授業時間外の学習

認定実技試験項目の理解についてはもちろんのこと、臨床実習を通して技術の工夫と患者への配慮、回復に努める姿勢について理解ができるよう準備をして臨むこと。

成績評価

実習時間は4.5時間として実施する。
下記に「評価の視点」となる目標と評価について列挙する。

1. 日常態度
服装・容姿、挨拶・言葉遣い、時間・約束事、指示・指導に対する適切な応答
コミュニケーション（全人的評価・個人的評価）
積極性、患者対応、守秘義務・個人情報、社会性（社会適正・職業適性）

使用テキスト

当校指定の実習要項

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	健康科学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

健康科学では3年2学期まで学んできた基礎医学の総復習を行う。主に生理学の観点から、内臓の自律機能、神経機能、内分泌機能、感覚機能、運動機能について、問題演習をしながら理解を深め国家試験に備える。

到達目標

生理学的に重要な分野について十分理解し国家試験に余裕をもって対応できる学力を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	医療経済の概略
第2回	医療保険制度の仕組み
第3回	介護保険制度の成り立ち
第4回	介護保険制度の仕組み
第5回	施術者に求められる医療倫理
第6回	疾病予防と公衆衛生（疫学統計含む）
第7回	WHO・母子保健・生活習慣病
第8回	試験/解説
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

講義で配布した資料を読み柔道整復師の国家試験に求められる知識の整理を行う。また疑問点などがあれば教員に確認すること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。
試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。
試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。
試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。
学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

テキスト指定はない。授業資料を配布する。

担当教員の実務経験

医療施設等において理学療法士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	リハビリテーション実践	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

昨今の深刻な高齢化社会においてリハビリテーションの重要性は高まっている。リハビリテーションの在り方は機能的アプローチに留まらず、身体的・精神的・社会的にあるべき状態への回復を目指すことにある。この実践は医療従事者が一方的に提供するものではなく、柔道整復師はもちろん地域住民をも含めたアクターが相互に情報共有や役割を果たしながら創りあげていくものである。本科目では、柔道整復師の観点から必要なリハビリテーションの概念、知識及び技術の習得を目指すと共に柔道整復師に期待される役割を学習する。そのため講義の中では生物学的知識の習得に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、具体的事例の介入と効果について考察する。また進め方の基本として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていく。

到達目標

- ・高齢化にまつわる日本社会や経済の変動と医療専門職が置かれた状況を理解する。
- ・リハビリテーションの本義の観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。
- ・柔道整復師(国家試験)に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	リハビリテーションの理念・障害モデル
第2回	障害の捉え方
第3回	医療における各時期のリハビリテーションとチーム医療
第4回	筋力増強訓練と筋収縮様式
第5回	関節可動域訓練
第6回	リハビリテーションにおける治療（物理療法）
第7回	脳卒中のリハビリテーション病態と分類
第8回	脳卒中のリハビリテーション失語とADL
第9回	義肢切断のリハビリテーション1
第10回	義肢切断のリハビリテーション2
第11回	補装具療法のリハビリテーション
第12回	補装具療法の種類と適応
第13回	小児疾患のリハビリテーション
第14回	呼吸・循環器疾患のリハビリテーション
第15回	定期試験
第16回	解説とまとめ
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。
復習：学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。
対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。
試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。
試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。
試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。
学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

三上真弘, リハビリテーション医学改訂第4版, 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修。

担当教員の実務経験

医療施設等において理学療法士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	健康デザイン学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	大塚 博史	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

医療技術の進歩によって疾患の治癒率が上昇した一方、種々の障害や社会的問題を抱える人々は年々増加している。本授業では、リハビリテーション医学の復習・補足を行う。また、確認テストを実施して学生個々の弱い部分を抽出し、国家試験に向け知識の補強を行う。

到達目標

リハビリテーション医学における臨床に必要な知識を有し、国家試験レベルの問題が解説できる事を目的とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	国家試験問題（リハビリテーション医学）の解説，確認テストの実施
第2回	確認テストの解説
第3回	演習1※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第4回	演習2※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第5回	演習3※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第6回	演習4※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第7回	演習5※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第8回	演習6※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第9回	演習7※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第10回	演習8※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第11回	演習9※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第12回	演習10※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第13回	演習11※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第14回	演習12※確認テストの結果を踏まえ演習内容を構成
第15回	試験解説/まとめ

授業時間外の学習

予習として授業計画に示された教科書範囲を熟読し、復習として授業内容をノートにまとめるなど確認作業を行う事とする。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。
試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。
試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。
試験結果は各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。
学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

1. 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 第4版
2. 配布資料

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	整形外科学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	志村 圭太	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

本科目では、多種多様な整形外科疾患の概要（病態、診断、治療、リスク管理）を理解すべく、柔道整復師が日常業務で遭遇する頻度の多い運動器疾患から若年者のスポーツ傷害まで網羅的に学修する。履修にあたっては運動器の基礎を理解していることが重要であり、これまで学修した運動学、解剖学、生理学を十分に復習しておくことが望まれる。講義中心の授業ではあるが、問題演習が含まれるため、学生の積極的な参加が望まれる。

到達目標

- 1.骨、関節、筋、靭帯、腱を主とする運動器の構造と機能について説明できる
- 2.整形外科で用いられる診察法、検査法、治療法の概要を説明できる
- 3.骨関節損傷の概要を説明できる
- 4.代表的な整形外科疾患（第3回-5回；疾患別各論）の概要を説明できる
- 4.四肢と体幹の主要な運動器疾患の病態、診断、治療の概要を説明できる

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法
第2回	整形外科的治療法、骨関節損傷総論
第3回	疾患別各論；感染性疾患、腫瘍、非感染性軟部・骨関節疾患（1）、全身の骨・軟部疾患（2）
第4回	非感染性軟部・骨関節疾患（2）、全身の骨・軟部疾患（2）、疾患別各論；骨端症、四肢循環障害
第5回	疾患別各論；神経・筋疾患、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論
第6回	第1-5回の振り返りとまとめ 問題演習
第7回	身体部位別各論；頸椎、胸椎、腰椎
第8回	身体部位別各論；肩、肩甲帯
第9回	身体部位別各論；上腕、肘関節
第10回	身体部位別各論；手関節、手指
第11回	身体部位別各論；骨盤、股関節
第12回	身体部位別各論；大腿骨、膝関節
第13回	身体部位別各論；下腿、足関節、足趾
第14回	第7-13回の振り返りとまとめ 問題演習
第15回	定期試験
第16回	定期試験の振り返りと解説
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学修：運動学、解剖学を中心として、これまで学習した運動器に関連する講義を復習する。また教科書の各回該当範囲を一読する。
事後学習：講義資料と教科書を照らし合わせ復習する。小テストで不正解の項目について重点的に復習する。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。
最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。
※小テストを実施しない場合は、定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

教科書：全国柔道整復学校協会監修.整形外科学.改訂第4版.南江堂.2017
毎回講義資料を配布する。
参考書は授業内で適宜紹介する。

担当教員の実務経験

理学療法士として医療機関およびスポーツ現場においての実務経験を有する

2024年度

科目名	外科学概論	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	平賀 篤、渡邊 修司	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
外科学領域の疾病を理解し、治療法を学ぶことを目的とする。					
到達目標					
外科学領域の「損傷」、「炎症と外科感染症」、「腫瘍」、「ショック」、「輸血・輸液」、「消毒滅菌」などについて理解するとともに、各種疾患における外科的治療を説明できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	1章：損傷				
第2回	2章：炎症と外科感染症				
第3回	3章：腫瘍				
第4回	4章：ショック				
第5回	5章：輸血、輸液				
第6回	6章：消毒と滅菌 7章：手術				
第7回	8章：麻酔				
第8回	9章：移植と免疫				
第9回	10章：出血と止血				
第10回	11章：心肺蘇生法				
第11回	12章：脳神経外科疾患 13章：甲状腺・頸部疾患				
第12回	14章：胸壁・呼吸器疾患 15章：心臓・脈管疾患				
第13回	16章：乳腺疾患 17章：腹部外科疾患				
第14回	試験前対策				
第15回	定期試験				
第16回					
第17回	問題返却・解説				
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
・ 授業内容のまとめ ・ 関連する国家試験問題の予習復習 ・ 教科書の該当部分を事前に読んでおく					
成績評価					
定められた期日までに出席評価（動画の視聴・課題の提出）がすべて完了していることが、定期試験資格となる。定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。 最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。 ※小テストを実施しない場合は、定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。					
使用テキスト					
外科学概論 改訂第4版 南江堂					
担当教員の実務経験					

科目名	柔道整復術の適応	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	昇寛	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

柔道整復術の適否の考えとして、損傷に類似した症状を示す疾患、主に内臓疾患、腰痛、化膿性の炎症、血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷、脱臼骨折、外出血を伴う損傷、病的骨折および脱臼、意識障害を伴う損傷、脊髄症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷、内臓損傷の合併が疑われる損傷、高エネルギー外傷を含めた柔道整復術の適応を学習する。さらに、病態の解説、そのまま放置してしまった場合に起こりうるリスクなど一連の柔道整復術の適否について系統的に学習する。

到達目標

- 1) 患者の病態を適正に把握するために、柔道整復師に求められる知識を習得する。
- 2) 柔道整復術の適否の考えとして、病態の説明ができる。
- 3) 病態をそのまま放置してしまった場合、その後起こりうる可能性のある事項が説明できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション・学習の進め方、柔道整復術の適否を考える
第2回	損傷に類似した症状を示す疾患①（内臓疾患の投影を疑う疼痛、腰痛を伴う疾患）
第3回	損傷に類似した症状を示す疾患②（化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷）
第4回	血流障害を伴う損傷・末梢神経損傷を伴う損傷
第5回	脱臼骨折
第6回	外出血を伴う損傷・病的骨折および脱臼
第7回	まとめ
第8回	意識障害を伴う損傷
第9回	脊髄症状のある損傷
第10回	呼吸運動障害を伴う損傷
第11回	内臓損傷の合併が疑われる損傷
第12回	高エネルギー外傷1（外傷性ショック、播種性血管内凝固症候群）
第13回	高エネルギー外傷2（脂肪塞栓症候群、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症）
第14回	学習内容のまとめ
第15回	定期試験

授業時間外の学習

- 課題1：講義前の予習として、教科書を十分に読み、内容理解に努めること。
 課題2：講義中に説明したことは、ノートや教科書への書き込みをするなど復習できるように記録すること。
 課題3：講義後は、学習した範囲の復習を行い、しっかり覚えるまで十分に反復学習すること。

成績評価

定められた期日までに出席評価（動画の視聴・課題の提出）がすべて完了していることが、定期試験資格となる。
 定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。
 最終評価には小テストの平均点を加算する。
 最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。
 試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う（試験問題には画像および長文問題を含む）。
 試験の解答に疑義がある場合は教科書、授業プリントのみを基準として申しでること。
 学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修「医療の中の柔道整復」（南江堂、2019年）ISBN:978-4-524-24898-8

担当教員の実務経験

--

2024年度

科目名	関係法規	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

従来の憲法および柔道整復法・医療法・その他関係法規の内容に加えて、「患者中心の医療」や「良質な医療の提供」にみられるような近年の医療を取り巻く環境変化を知り、それらを踏まえたうえで法を理解することができる。
都度、授業の初めに前回の復習を目的とした小テスト（4択）を実施し、定期試験は過去問（4択）オリジナル問題（4択）で構成する。

到達目標

法の体系を学び、様々な用語の意味を理解し、柔道整復師法その他医療従事者の資格法、医療法等の内容を把握する。
そのうえで免許取得後、柔道整復の業について適法に行うことができることを目的とする。
また、国民医療費を扱う柔道整復師として施術管理者の要件や社会保障の現状や今後を理解し、国民の税金を扱う立場に立つ自覚を持つ。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、関係法規について、国家試験の傾向など） P1法の意義 ～ P2法の体系
第2回	P2法の体系 ～ P3柔道整復に関する法規
第3回	P4患者の権利 ～ P9リスクマネジメント
第4回	P10柔道整復師の目的 ～ P15免許
第5回	P16免許 ～ P23柔道整復師国家試験
第6回	P24業務 ～ P28
第7回	P29施術所 ～ P36広告
第8回	P37罰則 ～ P45附則
第9回	復習
第10回	P47医療従事者の資格法 ～ P67医療法
第11回	P66医療法 ～ P89社会福祉法規
第12回	P88社会福祉法規 ～ P94社会保険関係法規
第13回	P101個人情報の保護に関する法律 その他補足事項
第14回	総復習
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

教科の特性上、これまで聞いたことないような難しい言葉が頻繁に出てくる。そのたびに各自、辞書やインターネットで調べる習慣を身につける努力をすることが望ましい。その上で簡単な言葉で自ら説明する訓練をする。

成績評価

学期の2/3以上の出席および試験の平均が60点以上であることを原則とする。試験の平均とは定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を1割として換算する。学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 関係法規 2024年度版（授業計画欄のページは2022年度版を参照）

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	職業倫理	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
社会保障制度の全体像を把握し、その中でも柔道整復師として深くかかわる社会保険、特に医療制度の内容や現状について適切に理解する。また柔道整復師特有の職業倫理について学ぶことで免許取得後、医療従事者の一員として社会に貢献する土台を作っておく。					
到達目標					
①社会保障について、自分の言葉で説明できる ②その中でも医療保険については現状、課題などの説明できる ③療養費制度について理解し、請求方法の概要をつかむ ④医療従事者の職業倫理について学び、医療従事者としての基本的な姿勢を持つ					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス・社会保障とは				
第2回	医療保険制度				
第3回	療養費制度				
第4回	療養費請求のケーススタディ				
第5回	医療従事者の職業倫理				
第6回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応				
第7回	柔道整復師の社会的責任と対応				
第8回	まとめ				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推奨する。また、日常的に社会保障問題などについてはアンテナを張って興味を持つと良い。					
成績評価					
各学期の2/3以上の出席および試験の平均が60点以上であることを原則とする。試験の平均とは定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を1割として換算する。学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。					
使用テキスト					
全国柔道整復学校協会監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理					
担当教員の実務経験					
施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する					

2024年度

科目名	柔道Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	水村 麻輝	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位

授業概要

精力善用、自他共栄の精神を身につけさせる。攻防の形が正しくできて基本的な投げの形を身に付ける。

到達目標

認定実技審査を合格するための技術を100%修得する事を目的とする。

- ・柔道着の着方
- ・基本動作
- ・形の精度
- ・技の精度
- ・返事などのマナー

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	基本動作 礼法 受身の確認①
第2回	基本動作 礼法 受身の確認②
第3回	礼法 基本動作 講道館投の形（手技）約束乱取
第4回	礼法 基本動作 講道館投の形（腰技）約束乱取
第5回	礼法 基本動作 講道館投の形（足技）約束乱取
第6回	中間試験（認定と同じ流れ）
第7回	礼法 基本動作 講道館投の形（手技）約束乱取
第8回	礼法 基本動作 講道館投の形（腰技）約束乱取
第9回	礼法 基本動作 講道館投の形（足技）約束乱取
第10回	約束乱取の技の研究
第11回	礼法 基本動作 講道館投の形（手技）約束乱取
第12回	礼法 基本動作 講道館投の形（腰技）約束乱取
第13回	礼法 基本動作 講道館投の形（足技）約束乱取
第14回	礼法 基本動作 講道館投の形（手技～足技）約束乱取
第15回	礼法 作法 受身 形 乱取の復習
第16回	期末試験
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：怪我の防止のために柔軟を行う。
事後学習：技、受身の精度の向上のために授業終了前に確認を行う。

成績評価

期末試験100%で評価する。

使用テキスト

柔道着

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学Ⅵ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗、塩崎 由規	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

教科書を基本とし、必要に応じて参考書等を用いながら柔道整復師が必要とする基礎的疾患の理解を深める。また基礎的疾患の理解を得るために、柔道整復師として必要な病理学分野、生理学分野の知識を習得する。また柔道整復師を取り巻く環境としての公衆衛生を学び、知識を習得する。

到達目標

昨今、柔道整復では跳躍した施術について問題視されており基礎的疾患の理解が柔道整復師にも求められている。本科目では基礎となる病因について外傷とは全く異なることを注目し、柔道整復における適応疾患について見定めることが出来るようになる。柔道整復学における正確性の向上のため、柔道整復術以外となる周辺知識について外傷以外の疾患を学び柔道整復術の業となる施術について演繹できるようにする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	生理学とは(塩崎)	第21回	施術適応について鑑別 病因・素因の視点から (吉成)
第2回	筋の生理(塩崎)	第22回	栄養と代謝(塩崎)
第3回	神経の生理(塩崎)	第23回	消化と吸収(塩崎)
第4回	運動の生理(塩崎)	第24回	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症について (吉成)
第5回	柔道整復術の適応外となる疾病についての判断方法 (吉成)	第25回	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症のみきわめ (吉成)
第6回	まとめ①(塩崎)	第26回	まとめ③(塩崎)
第7回	骨癒合を遅延させる代謝障害について① (吉成)	第27回	関節置換による後療法に注意すべき免疫異常 (吉成)
第8回	感覚の生理(塩崎)	第28回	関節部後療法に注意すべき免疫異常のみきわめ (吉成)
第9回	骨癒合を遅延させる代謝障害について② (吉成)	第29回	高齢者の生理学的特徴・変化(塩崎)
第10回	内分泌・骨(塩崎)	第30回	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別 (頭頸部) (吉成)
第11回	生殖(塩崎)	第31回	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別 (胸部) (吉成)
第12回	まとめ②(塩崎)	第32回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化(塩崎)
第13回	骨癒合を遅延させる血液の循環障害 (吉成)	第33回	既往症としてとらえる先天性異常の成り立ち (吉成)
第14回	血液・循環①(塩崎)	第34回	施術整復師を取巻く保険制度や国民動向 (吉成)
第15回	骨癒合を遅延させる血液の細胞成分による障害 (吉成)	第35回	総復習①(塩崎)
第16回	血液・循環②(塩崎)	第36回	施術にあたり注意すべき感染症や消毒について (吉成)
第17回	呼吸の生理(塩崎)	第37回	施術所における環境衛生 (吉成)
第18回	全身所見にかかわる高血圧について (吉成)	第38回	総復習②(塩崎)
第19回	尿の生成と排泄(塩崎)	第39回	定期試験
第20回	骨折の治癒に関わる細胞と組織の適応 (吉成)	第40回	定期試験の解答解説

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに柔道整復師に必要な基礎的疾患の理解や機能解剖、国民の動向、公害の理解なども含め自宅で繰り返し学習することを推奨する。また、学んだ内容を他人に指導することで理解を深める。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。試験範囲はシラバスの項目にある病理学概論・衛生学・公衆衛生学・生理学および授業用プリントの内容を含む試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う。試験の解答に疑義がある場合は病理学概論・衛生学・公衆衛生学・生理学および授業用プリントのみを基準として申しでること。試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。卒業見込み該当教科。学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版
 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 改訂第3版
 全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	外傷の保存療法	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
外傷における保存療法と観血療法の違いと特徴について学ぶ。					
到達目標					
授業内容と今まで学んできたカリキュラムを踏まえた上で、保存療法の限界点を自らで判断できるようにする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	保存療法（概論）				
第2回	保存療法のメリット				
第3回	保存療法のデメリット				
第4回	観血療法（概論）				
第5回	観血療法のメリット				
第6回	観血療法のデメリット				
第7回	定期試験				
第8回	まとめ・解説				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
知識の定着のため、自学自習に励むこと。					
成績評価					
各学期の2/3以上の出席をもって科目履修とする。 授業内容の範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。 学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。					
使用テキスト					
南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版					
担当教員の実務経験					
施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する					

2024年度

科目名	臨床柔道整復学Ⅵ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位

授業概要

柔道整復学における総論と他教科からみた鑑別法について比較し、疾病の特徴からの確な外傷の判断を評価することができる。CBT・OSCEについては臨床柔道整復学Ⅶと連動し使用する。柔道整復師の临床上想定される鑑別から、一般臨床・外科学概論に含まれる、業務範囲外での対応方法についても問う。

到達目標

柔道整復学総論における各部位の損傷について、静力学的負荷が運動学分野のベクトル・関節トルク、立位の抗重力筋・歩行との関連性を理解し、運動生理学的な負荷が損傷にいたる過程を説明できるようになる。さらに病理学分野や、一般臨床分野に比べ外科学の全身疾患における症状から、発生機序のある外傷について明確な鑑別を行い、外傷における的確な評価ができるようになる。下記授業計画については、個別での進捗であるためシラバスについては回ごとに内容を定めない。授業開始前のガイダンスにて説明の機会を設ける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	実技演習・口頭試問1	第21回	実技演習・口頭試問15
第2回	実技演習・口頭試問2	第22回	実技演習・口頭試問15
第3回	実技演習・口頭試問3	第23回	実技演習・口頭試問15
第4回	実技演習・口頭試問4	第24回	まとめ・振り返り2
第5回	実技演習・口頭試問5	第25回	
第6回	実技演習・口頭試問6	第26回	
第7回	実技演習・口頭試問7	第27回	
第8回	実技演習・口頭試問8	第28回	
第9回	実技演習・口頭試問9	第29回	
第10回	実技演習・口頭試問10	第30回	
第11回	実技演習・口頭試問11	第31回	
第12回	実技演習・口頭試問12	第32回	
第13回	実技演習・口頭試問13	第33回	
第14回	実技演習・口頭試問14	第34回	
第15回	実技演習・口頭試問15	第35回	
第16回	まとめ・振り返り	第36回	
第17回		第37回	
第18回	実技演習・口頭試問15	第38回	
第19回	実技演習・口頭試問15	第39回	
第20回	実技演習・口頭試問15	第40回	

授業時間外の学習

1学期よりCBTによる事前学習の完了を必須とする。授業に入っても事前学習の内容が基盤となり、知識のみならず思考性や患者対応力（敬語・コミュニケーション能力）が基礎となる。ことから、授業開始時点でも事前学習とCBTの完成を優先する。授業ではOSCEの特性上、授業時間内で評価を行うため、実技・口頭試問の練習時間ではない。副読本について自己学習し、技術面においては、先の合格者の動画を参考に、実技の研鑽にあたること。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として出席を含めた総合評価を行う。授業の形状からSection1～4を試験実施順に合否を判断する。なお、定期試験前までに「section4までの合格」をもって総合評価とし「定期試験受験資格」を有すことになる。定期試験は講義授業であることから国家試験方式で行う。

使用テキスト**担当教員の実務経験**

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復学Ⅶ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位

授業概要

I学期よりCBTによる事前学習の完了を必須とする。授業に入っても事前学習の内容が基盤となり、知識のみならず思考性や患者対応力（敬語・コミュニケーション能力）が基礎となる。ことから、授業開始時点でも事前学習とCBTの完成を優先する。授業ではOSCEの特性上、授業時間内で評価を行うため、実技・口頭試問の練習時間ではない。副読本について自己学習し、技術面においては、先の合格者の動画を参考に、実技の研鑽にあたること。

到達目標

柔道整復理論編の各論下肢の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、施術所内や居宅のリスク発見・リスク管理、面談法と施術時コミュニケーション技法に比べ施術中の問題発生時の対応、一般的な疼痛スケールの対応に対し臨床適応できるようになる。下記授業計画については、個別での進捗であるためシラバスについては回数ごとに内容を定めない。授業開始前のガイダンスにて説明の機会を設ける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	実技演習・口頭試問 1	第21回	実技演習・口頭試問 2 0
第2回	実技演習・口頭試問 2	第22回	実技演習・口頭試問 2 1
第3回	実技演習・口頭試問 3	第23回	実技演習・口頭試問 2 2
第4回	実技演習・口頭試問 4	第24回	まとめ・振り返り
第5回	実技演習・口頭試問 5	第25回	
第6回	実技演習・口頭試問 6	第26回	
第7回	実技演習・口頭試問 7	第27回	
第8回	実技演習・口頭試問 8	第28回	
第9回	実技演習・口頭試問 9	第29回	
第10回	実技演習・口頭試問 1 0	第30回	
第11回	実技演習・口頭試問 1 1	第31回	
第12回	実技演習・口頭試問 1 2	第32回	
第13回	実技演習・口頭試問 1 3	第33回	
第14回	実技演習・口頭試問 1 4	第34回	
第15回	実技演習・口頭試問 1 5	第35回	
第16回	まとめ・振り返り	第36回	
第17回	実技演習・口頭試問 1 6	第37回	
第18回	実技演習・口頭試問 1 7	第38回	
第19回	実技演習・口頭試問 1 8	第39回	
第20回	実技演習・口頭試問 1 9	第40回	

授業時間外の学習

I学期よりCBTによる事前学習の完了を必須とする。授業に入っても事前学習の内容が基盤となり、知識のみならず思考性や患者対応力（敬語・コミュニケーション能力）が基礎となる。ことから、授業開始時点でも事前学習とCBTの完成を優先する。授業ではOSCEの特性上、授業時間内で評価を行うため、実技・口頭試問の練習時間ではない。副読本について自己学習し、技術面においては、先の合格者の動画を参考に、実技の研鑽にあたること。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として出席を含めた総合評価を行う。授業の形状からSection1～4を試験実施順に合否を判断する。なお、定期試験前までに「section4までの合格」をもって総合評価とし「定期試験受験資格」を有すことになる。定期試験は講義授業であることから国家試験方式で行う。

使用テキスト**担当教員の実務経験**

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	黒岩 亮太	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

柔道整復術の施術の適応判断と必要性について実際の症例を基に学習する。また、日常診療において必要な画像（レントゲン、エコー等）の読影、特に正常像とその撮影法について学習する。

到達目標

柔道整復術の施術の適応判断と必要性について、施術適応範囲内にある画像読影と撮影法などや日常診療で比較的遭遇機会の多い外傷、疾患に対する鑑別や重要な合併症、続発症とそのリスク管理について説明できるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション
第2回	X線の撮影法と読影
第3回	X線の撮影法と読影
第4回	X線の撮影法と読影
第5回	超音波画像の撮影法と読影
第6回	超音波画像の撮影法と読影
第7回	超音波画像の撮影法と読影
第8回	小児疾患
第9回	腰椎分離症
第10回	脊椎圧迫骨折と骨粗鬆症
第11回	肋骨骨折に伴う血気胸
第12回	深部静脈血栓症・肺塞栓症
第13回	悪性腫瘍
第14回	定期試験の対策・復習
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推奨する。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は、定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

配布資料

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復実技3	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	岩井 一步	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

接骨院や医療機関で診られる外傷や疾患について柔道整復学・整形外科の両側面から学び、自身で判断や見極めができるようになるため知識を身につける。

到達目標

症状や受傷機序などから各疾患に対し、根拠に基づいた鑑別が出来るようになるだけの知識・見識を身につけることを到達目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス	第21回	骨・関節損傷総論
第2回	鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼	第22回	スポーツ整形外科
第3回	上腕骨外科頸骨折	第23回	疾患別各論1
第4回	橈骨遠位端骨折	第24回	疾患別各論2
第5回	第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節脱臼	第25回	疾患別各論3
第6回	肩関節前方脱臼	第26回	疾患別各論4
第7回	肋骨骨折	第27回	身体部位別各論1
第8回	肘関節後方脱臼・肘内障	第28回	身体部位別各論2
第9回	上肢の軟部組織損傷	第29回	身体部位別各論3
第10回	大腿部・膝部の軟部組織損傷	第30回	身体部位別各論4
第11回	下腿の軟部組織損傷	第31回	試験
第12回	足関節外側側副靭帯損傷	第32回	解説
第13回	下腿骨骨幹部骨折	第33回	まとめ1
第14回	まとめ	第34回	まとめ2
第15回	試験	第35回	まとめ3
第16回	解説	第36回	まとめ4
第17回	運動器の基礎知識	第37回	まとめ5
第18回	整形外科診察法	第38回	まとめ6
第19回	整形外科検査法	第39回	まとめ7
第20回	整形外科的治療法	第40回	まとめ8

授業時間外の学習

国家試験にも将来的な自分の見識にもつながるので授業時間外でも予習・復習を忘れず常に研鑽を続けること。

成績評価

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、各教科に定められた定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

※小テストを実施しない場合は定期試験の平均点の採点を100分率で10割として採点する。

使用テキスト

南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版

南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版

南江堂 整形外科学 改訂第4版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

科目名	臨床柔道整復実技4	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	米山 博之	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査法などの修得を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や整復法を基とした実技を行う。

到達目標

柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、検査および判断力・外傷評価・施術法等臨床適応ができるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	年間の授業説明	第21回	下腿三頭筋損傷（診察と検査）
第2回	鎖骨骨折（診察と整復）	第22回	足外側側副靭帯損傷（診察と検査）
第3回	上腕骨外科頸骨折外転型（診察と整復）	第23回	足外側側副靭帯損傷（テープ固定）
第4回	コーレス骨折（診察と整復）	第24回	認定実技審査リハーサル前練習
第5回	肩鎖関節上方脱臼（診察と整復）	第25回	認定実技審査リハーサル（中期試験に該当）
第6回	肩関節烏口下脱臼（診察と整復）	第26回	認定実技審査本番前練習
第7回	前期試験（第1回目----50点）前半	第27回	機能と解剖（上肢）1
第8回	前期試験（第1回目----50点）後半	第28回	機能と解剖（上肢）2
第9回	肘関節後方脱臼（診察と整復）	第29回	機能と解剖（上肢）3
第10回	肘内障（診察と整復）	第30回	機能と解剖（上肢）4
第11回	肩腱板損傷（診察と検査）	第31回	機能と解剖（上肢）5
第12回	上腕二頭筋長頭腱損傷（診察と検査）	第32回	後期試験（第1回目----50点）
第13回	ハムストリングス損傷（診察と検査）	第33回	機能と解剖（体幹）1
第14回	前期試験（第2回目----50点）前半	第34回	機能と解剖（体幹）2
第15回	前期試験（第2回目----50点）後半	第35回	機能と解剖（体幹）3
第16回	前期試験の再試験	第36回	機能と解剖（体幹）4
第17回	大腿四頭筋打撲（診察と検査）	第37回	機能と解剖（体幹）5
第18回	膝内側側副靭帯損傷（診察と検査）	第38回	機能と解剖（体幹）6
第19回	膝十字靭帯損傷（診察と検査）	第39回	後期試験（第2回目----50点）
第20回	膝半月板損傷（診察と検査）	第40回	後期試験の再試験

授業時間外の学習

授業内容は配付資料に従って行なう。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
前期試験と後期試験は、それぞれ各2回ずつの試験の合計で評価する。
中期試験は、認定実技審査リハーサルでの成績でもって評価する。
中期試験の再試験は、認定実技審査本番での成績でもって評価する。

使用テキスト

配布資料に沿って行う。

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復実技5	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	米山 博之	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する固定法などの修得を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や整復法を基とした実技を行う。

到達目標

柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、固定法など臨床適応ができるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	年間の授業説明	第21回	膝内側側副靭帯損傷（Xテープ固定）
第2回	鎖骨骨折（固定具作成と固定）	第22回	足外側側副靭帯損傷（テープ固定）
第3回	上腕骨骨幹部骨折（ミッドドルフ副子作成と固定）	第23回	認定実技審査リハーサル前練習
第4回	コーレス骨折（クラメル副子作成と固定）	第24回	認定実技審査リハーサル前練習
第5回	ボクサー骨折（アルミ副子作成と固定）	第25回	認定実技審査リハーサル（中期試験に該当）
第6回	前期試験前練習	第26回	認定実技審査本番前練習
第7回	前期試験（第1回目-----50点）前半	第27回	機能と解剖（下肢）1
第8回	前期試験（第1回目-----50点）後半	第28回	機能と解剖（下肢）2
第9回	下腿骨骨幹部骨折（クラメル副子作成と固定）	第29回	機能と解剖（下肢）3
第10回	肋骨骨折（厚紙副子作成と固定）	第30回	機能と解剖（下肢）4
第11回	肩鎖関節上方脱臼（テープ固定）	第31回	機能と解剖（下肢）5
第12回	肩関節烏口下脱臼（厚紙副子作成と固定）	第32回	後期試験（第1回目-----50点）
第13回	前期試験前練習	第33回	柔整臨床問題1
第14回	前期試験（第2回目-----50点）前半	第34回	柔整臨床問題2
第15回	前期試験（第2回目-----50点）後半	第35回	柔整臨床問題3
第16回	前記試験の再試験	第36回	柔整臨床問題4
第17回	肘関節後方脱臼（クラメル副子作成と固定）	第37回	柔整臨床問題5
第18回	示指PIP関節背側脱臼（アルミ副子作成と固定）	第38回	柔整臨床問題6
第19回	アキレス腱断裂（クラメル副子作成と固定）	第39回	後期試験（第2回目-----50点）
第20回	足外側側副靭帯損傷（厚紙副子作成と固定）	第40回	後期試験の再試験

授業時間外の学習

授業内容は配付資料に従って行なう。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。
前期試験と後期試験は、それぞれ各2回ずつの試験の合計で評価する。
中期試験は、認定実技審査リハーサルでの成績でもって評価する。
中期試験の再試験は、認定実技審査本番での成績でもって評価する。

使用テキスト

配布資料に沿って行う。

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床柔道整復実技6	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	佐々木 祐樹、塩崎 由規、大嶋 和成	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編改訂第7版および実技編 改訂第2版の全範囲について、損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。

到達目標

柔道整復学の骨折、脱臼、筋損傷、腱損傷、神経損傷における総論および、上肢・下肢・体幹・頭部について内容を理解し、説明・実践する能力を身につけることを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	損傷時に加わる力・痛みの基礎	第21回	頭部・顔面の骨折
第2回	各組織の損傷(骨・関節)	第22回	上肢帯・肩関節の脱臼①
第3回	各組織の損傷(筋・腱・神経)	第23回	下肢の脱臼
第4回	診察	第24回	上肢帯・肩関節の脱臼②
第5回	治療法(整復法・固定法・後療法)	第25回	頭部・体幹の軟損
第6回	外傷予防	第26回	肘関節の脱臼
第7回	まとめ	第27回	股関節の軟損
第8回	復習	第28回	手関節・手指の脱臼
第9回	頭部・顔面の骨折	第29回	大腿部の軟損
第10回	上肢帯・上腕・前腕の骨折①	第30回	肩関節・上腕の軟部組織損傷①
第11回	頸椎・胸椎の骨折	第31回	膝関節・下腿の軟損 ①
第12回	上肢帯・上腕・前腕の骨折②	第32回	肩関節・上腕の軟部組織損傷②
第13回	腰椎・胸部の骨折	第33回	膝関節・下腿の軟損 ②
第14回	上肢帯・上腕・前腕の骨折③	第34回	肘・前腕部の軟部組織損傷
第15回	骨盤骨骨折	第35回	足関節・足部の軟損
第16回	手関節・手指の骨折①	第36回	手関節・手指の軟部組織損傷
第17回	大腿骨骨折	第37回	頭頸部・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟損まとめ
第18回	手関節・手指の骨折②	第38回	上肢骨折・脱臼・軟損まとめ
第19回	膝蓋骨・下腿骨骨折・足部の骨折	第39回	定期試験
第20回	手関節・手指の骨折③	第40回	定期試験 解説

授業時間外の学習**成績評価**

通年教科の講義の場合

学期内の出席が2/3以上の出席とともに、各教科に定められた定期試験の平均点が60点以上であることを原則とする。最終評価には小テストの平均点を加算する。

最終評価方法は定期試験の平均点の採点を100分率で9割、小テストの平均点を100分率で1割として換算した際の合計から決定する。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編改訂第7版
全国柔道整復学校協会 柔道整復学 実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	臨床実習Ⅳ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠康、吉成 有紗、中神 太一、佐々木 祐樹、塩崎 由規、岩井 一步、大嶋 和成	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

実患者についてのカルテを用いて、2例の臨床現場での判断・施術・治療（症状固定）といった見極めについて学ぶ機会であり、臨床実習Ⅳの終了後には柔道整復師としての判断・行動することへの「責任感」を養うことを目的としている。

到達目標

「問診・視診・触診（実施した検査法含む）」、「施術の根拠」、「症状の変化についての経過観察法」、「治療・（症状固定）についての見極め」の観点を実習指導者に実施し理解できる。この際保険点数による施術にかかわる費用算出当については含まない。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回		第21回	
第2回		第22回	
第3回		第23回	
第4回		第24回	
第5回		第25回	
第6回		第26回	
第7回		第27回	
第8回		第28回	
第9回		第29回	
第10回		第30回	
第11回		第31回	
第12回		第32回	
第13回		第33回	
第14回		第34回	
第15回		第35回	
第16回		第36回	
第17回		第37回	
第18回		第38回	
第19回		第39回	
第20回		第40回	

授業時間外の学習

成績評価

実習時間は4.5時間として実施する。

1. 日常態度

服装・容姿、挨拶・言葉遣い、時間・約束事、指示・指導に対する適切な応答
コミュニケーション、職業適性

2. 付帯業務

施術室や待合室などの清潔保持、実習施設でのその他の付帯業務に対する行動評価

使用テキスト

当校指定の実習要項

担当教員の実務経験

施術所等において柔道整復師としての実務経験を有する